

千葉敬愛短期大学総合子ども学研究所

年 報

2021(令和3)年度

千葉敬愛短期大学

はじめに

鈴木 健一

千葉敬愛短期大学は、昭和25年に開学いたしました。昭和62年からはこの佐倉市に移り、地域の皆様の御理解・御支援を賜り、教育・保育の敬愛として、数多くの教育者・保育者を送り出し、昨年は創立70年を迎えております。この間、平成26年には佐倉市と連携協力に関する包括協定を締結し、地域と共に歩む大学としてさまざまな取り組みを行ってまいりました。

総合子ども学研究所は、平成21年に開設されました。本研究所は、

「子ども」を様々な視点から、学問的・実践的見地に基づいて研究し、本学の教育の充実発展を図ると共に、地域の教育・保育に寄与することを目的とする

としており、地域連携、共同研究の推進を事業目的に掲げ、さまざまな取り組みをしてきております。

今年度も、昨年度同様、新型コロナ感染防止のために、本研究所が主催したり協力したりする多くの活動が中止となってしまいました。地域の皆様の御期待に応えられず、残念な思いでおります。今後は状況を見極めながら、地域の皆様の御要望に応えるべく、可能な形や内容を模索してまいります。

今年度実施できた活動を、年報という形でまとめ、御報告いたします。併せて論文等も掲載しております。御助言を頂戴できれば、ありがたく存じます。

本研究所の活動を進めるに当たっては、内外の方々から多大な御支援・御協力をいただきました。この場をお借りして、改めて深く感謝申し上げます。

千葉敬愛短期大学総合子ども学研究所 年報

目次

はじめに	1
I 事業報告	
1 「コミュニティーカレッジ」さくらへの講師派遣	5
2 令和3年度 高大連携・高大接続教育	7
3 保育士の学び直し・学び深めに関するニーズ調査	13
II 研究論文等	
保育士養成校におけるソルフェージュ教育の必要性(2) 音楽表現とリトミックからの実践	岡崎 裕美・二見 美千代・佐久間 敦子 19
幼児を対象とした健康教育に関する絵本の一考察Ⅱ 片づけに関連する絵本の内容分析	齋藤 めぐみ 43
絵本の製作と幼児教育とプレゼンテーション 高大連携「総合的な探究の時間」の授業研究	久保木 健夫 53
シフォン遊びのための歌〔創作(作曲)〕	大野 雄子 73
言語使用の意識について〔調査報告〕	鈴木 健一 75

I 事業報告

「コミュニティーカレッジさくら」への講師派遣

佐倉市臼井公民館が主催する「コミュニティーカレッジさくら」は、地域の住民を対象に行われている教育活動の一つである。2年制で行われており、そこには地域のリーダーとなっていく市民の意欲的に学ぶ姿が見られる。

昨年度は新型コロナの影響下で中止されたこの「コミュニティーカレッジさくら」が、今年度は再開された。本学から6名を講師として派遣することになり、主として1年生を対象に、以下のようなテーマで講義を行った。

月日	講義テーマ	派遣講師
5/18	〔入学記念講演〕 教えられること、教えられないことを考える	明石 要一
5/22	よりよいコミュニケーションとは ～話し方・伝え方～	鈴木 健一
6/12	地域のリーダーになるために ～地域の人の意見をまとめるには コンセンサスとは～	清水 一巳
6/26	よりよく「聴く」ことへの責任 ～守秘義務と個人情報の扱い 傾聴技術の習得～	大野 雄子
7/24	異年齢社会の構造と課題 ～小・中学生が抱えているもの～	鈴木 健一
7/30	地域の様々な実践 ～実践者を囲んで 子育て支援実践例～	吉村 真理子
12/11	家庭・家族と地域の社会的役割 ～青少年を取り巻く社会の変化～	新田 司



(文責：鈴木健一)

令和3年度 高大連携・高大接続教育

今年度実施の高大連携・高大接続教育

学長提言「高大連携への期待」

千葉敬愛短期大学学長 明石 要一

高大連携はかなり進んでいます。これからは「量」から「質」への転嫁が望まれます。「量」から「質」へのステップを考えてみます。

第1ステップが高校と大学の交流の開始です。とにかく相手を知りましょう、という段階です。高校に出かけて授業をする「出前授業」や高校生が直接大学に出かける「高校生セミナー」「オープンキャンパス」などがあります。

第2ステップは 単発でなく恒常的に交流を行う仕組みづくりの段階です。具体的には、連携のためにお互いが総括的な協定を結ぶのです。千葉敬愛短期大学・敬愛大学は千葉県下の高校と多くの協定を結んでいます。

第3ステップはお互いが単位の互換や人事交流を行う段階です。例えば、大学の教員が高校生用に15回の講座を提供するのです。そして、この講座を受講し試験に合格した者に2単位与えるのです。この単位は高校では「課外活動」、大学では入学したときに新たに2単位として認めるのです。

人事交流ですが、高校の教員と大学の教員がそれぞれ5年間ほどお互いの学校に籍を置き、授業を担当するのです。

これからの高大連携は第3ステップを目指して進む、ことを期待します。

〈連携協定高校との連携事業〉

- 1 千葉県立浦安高等学校 総合的な探究の時間「子どもと絵本～絵本制作～」講座（久保木准教授）
年間を通じて10回の講座を実施。生徒たちがテーマを決めて、最終回にはグループの代表が全体会で発表した。2月に行われた講座受講者代表によるプレゼンテーションでは、本講座の代表者の発表が優秀賞を受賞した。昨年度の受賞に続き連続して優勝賞の受賞は、生徒たちの意欲と学びの成果だと考える。
- 2 千葉県立四街道北高校 保育基礎コースへの支援講座
 - (1) 「保育の学び1・2・3」のテーマで、短期集中出前講座（伊藤准教授）
 - ①「保育とは～子どもの発達と保育～」
 - ②「子どもと絵本～絵本の読み聞かせ～」
 - ③「子どもと遊びそして学び～作って遊ぼう～」を実施した。
ボランティア活動や今後予定されている実習に向けても意義あるものになったとコースを担当された先生方からの声をいただいた。
 - (2) ピアノ初心者のための「音楽基礎講座」 10月・11月実施（岡崎教授・二見講師）

本学では、高校生セミナーを開催している。これまでは、6月15日千葉県民の日、夏休み期間中に1回、秋に1回、合計3回の体験講座を実施してきた。今年度は、四街道北高校保育基礎コースの為に1グループ15名の枠を設定し、一般公募の高校生と一緒に、音楽の基礎知識の学習とピアノ演奏の基本技術を学べる講座を実施した。参加者のほとんどが、初めてピアノを演奏する経験をし、「ちょうちょう」「かえるの歌」などを演奏した。

「楽しく学ぶこと」、失敗することが大事」を合言葉に参加者全員で演奏した後は、笑顔と拍手で包まれた文字通り「音楽」の講座になった。

- 3 君津高校教員基礎コース 出前講座
「子どもの発達と幼児教育」(大野教授)
- 4 千葉県立我孫子高等学校教員基礎コース夏合宿
「保育者に必要なことばの力」(佐久間ゼネラルサポーター)
- 5 成田北高校インターンシップ事前講座
「かけがえのない命を守るということ」(佐久間ゼネラルサポーター)
- 6 千葉県立小見川高等学校
「開かれた学校づくり委員会」委員参加(清水准教授)

資料 【四街道北高校 保育基礎コース 「保育の学び1・2・3」 伊藤准教授の講座】



*真剣なまなざし



*読み聞かせ・Oちゃん上手



*個性が光る「あおむし」たち

四街道北高校保育基礎コース 生徒の感想から

- *廊下や窓に向かって座席があると歩く人や窓の外の状況に目が行くなど、気が散る状況が生まれるので、子どもたちが集中できる位置に対する配慮などが学べた。
 - *これから実習などで、読み聞かせなども多くあると思うので、今日学んだことを活かし、子どもたちが本の世界に入り込めるように工夫していきたいと思った。
 - *子どもたちが絵本に興味を示し絵本の世界に夢中になれるよう、細かなところまで気を付けなければならぬことをあらためて知りました。例えば、本を読む時の姿勢や、本の持ち方、めくり方、声の出し方や読み方、間の取り方、子どもたちの座る位置、本の大きさなど、実際に体験する時とても苦戦しました。みんなの前で読み聞かせをするのは初めてで緊張もしましたが、これから先、子どもたちと触れ合うのも多くなると思うので、経験をしっかり活かし頑張りたいと思いました。
 - *ページをめくった時は、読み手が絵をしっかり見てストーリーを予測したりできるよう葉間を置くことが大事。いろいろなことが分かった。
 - *読み終わった後に、「どうだった?」「面白かった?」などと感想を聞いたりせずに、一人一人が本の世界の余韻を味わうことが大事なのだと思った。
 - *たくさん練習することが大事なので、図書館で絵本を借りて学んだことを活かしながら練習したい。
- 担当者の言葉 「子どもの発達と保育」子どもと絵本～絵本の世界が広がる 伊藤 祐子
- 子どもは、様々な人と出会い、関わり、影響を受け、地域社会、自然環境、社会の文化などを生活の

中に取り組みながら成長し、「人として」育っていきます。保育は子どもと保育者の相互的なやり取りによって行われるものであり、子どもはそれぞれ自分のやりたいことを見つけ、自分から周りの人や物、自然事象などの環境に関わって遊びに取り組むことを重視しています。保育者は、子どもが自分から遊びに取り組めるように「環境を用意する」ことが必要になります。保育者に読んでもらった絵本の世界にはいり、「ごっこ遊び」を楽しむことも大好きです。絵本・素話などのお話にふれることで、お話の世界を楽しむことができます。絵本やお話が大好きな子どもになるように、絵本にふれる機会をたくさん持つことが必要なことだと考えます。

〈系列校との連携事業〉

- ①系列高等学校教員向け学校説明会（入試広報部主管事業） 6月 系列4高校に訪問し説明
- ②千葉敬愛高等学校 3学年 進路指導講座 模擬面接指導 9月
- ③千葉敬愛高等学校 2学年 敬天愛人講話 10月
「あなたはあなたでいいんだよ～ありのままの自分を認めよう～」 佐久間ゼネラルサポーター
- ④横芝敬愛高等学校 1・2学年 進路体験学習 11月
「保育者に求められる日本語力」・「絵本の読み聞かせ体験」 佐久間ゼネラルサポーター
- ⑤千葉敬愛高等学校 1・2学年 特別講座 R4年2月
「子どもの発達と幼児教育」 大野教授

資料 【千葉敬愛高校校 第2学年「敬天愛人講話」 感想】

- *今の自分に自信を持つことの重要さや自分を好きになったときのメリットなどがわかりました。また、人間関係で自分が傷ついたら自分も誰かを傷つけてるのではないかと考えてみるようにしようと思えました。
- *余談も興味のある内容で聞いていてためになりました。姉も幼稚園教諭なので、今日聞いた話を聞かせたいです。自分らしく、今ある命を大切にしたいと思いました。
- *お話の仕方がとても優しく面白くて、内容が自分のなかにすっとはいってきただけの感じがしました。自分の欠点も認めるということが大切と仰っていて、難しいことだけど頑張っただけで認めていけたらいいなと思いました。とても心に響いた敬天愛人講座でした。
- *他人と比較せずありのままの自分を受け入れる事が大切だということが分かった講座だった。生きていく上で必要な事を学べたと思うからこの講座を活かして生活していきたい。今日この講座の話聞いて本当に良かったと思います。ありがとうございました。

〈本学での特別講座〉

高校生セミナーでは、「保育の今」や「楽しく学び、弾ける喜び」を体験していただき、自ら、意欲的に学ぶ楽しさを感じてもらいたいと期待しています。

セミナー1では、コロナの感染防止の対応をしながら、隣接するさくら敬愛保育園の全面的なご協力により、園見学ができ、保育者として子どもたちや保護者を支えている守屋園長先生から、子どものこと、保育者の仕事、保護者へのかかわりの重要性など、保育の現場を教えていただくことができ、参加した高校生も保護者も園長先生の語る子どもたちの日常に感動し、「保育者への想い」が強くなったとのことでした。

【高校生セミナーⅠ「保育の仕事 観る・聴く・創る～さくら敬愛保育園～」 6月15日】



はじめに、隣接する「さくら敬愛保育園」の自由遊びの様子を外から参観し、守屋園長先生から「保育の仕事」の講義を受けました。



大野先生の手袋人形制作のあと「雨降りくまの子」の歌を歌いました。岡崎先生のプロの歌唱力・表現力に拍手喝采でした。



休憩・給水タイムには村瀬先生の体ほぐしの体操をだし、コロナ禍で硬くなった体や心のメンテナンスを学びました。



高校生も保護者の方も、熱中してくまさん人形を作ります。可愛いくまさんができました。保育者になっても役立ちますよ。

【高校生セミナーⅡ「ピアノ初心者のための音楽基礎講座」 10月9日】

本学の入学者も、またオープンキャンパスの参加者からも、「ピアノを弾いたことがないのですが、入学後の授業についていけますか」「音符も何も分かりません。音楽の授業が心配です。」という質問や不安をよく聞きます。本学の学生へのアンケートでも同じような声が多く、少人数での授業や、丁寧な指導が行われていますが、入学前からの支援講座を設定することで、こうした不安を軽減する目的で昨年度から音楽の基礎知識と楽器演奏の基本を学べる講座を設定しています。

入学前教育（教務委員会所管）の中でも「音楽基礎講座」を設定しており、次年度からは教育課程の中にも「子どもと音楽基礎」の授業が組まれています。一貫したプログラムで、入学前から卒業後の保育の現場で役立つ総合的な「音楽」の講座です。

高校生セミナーⅡ・Ⅲでは入学後の授業を体験していただきました。



明石学長挨拶

男子の参加者も多く、「保育者」の進路選択を是非検討してほしいと推奨しました。



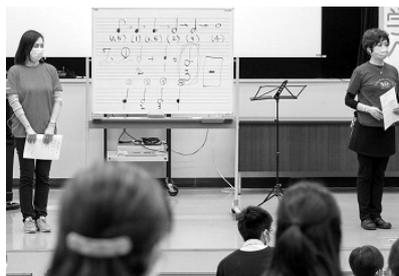
音符や音階・リズムなどの基礎を学習し、その後2グループに分かれて、ピアノを弾きました。初めてでも、上手に弾けました！



受講証明書授与

総合子ども学研究所 鈴木所長から一人一人受け取りました。

【高校生セミナーⅢ「ピアノ初心者のための音楽基礎講座」 11月21日】



音符の長さ、休符、楽譜を見て演奏できるようにするには、基本の知識も必要です。



四街道北高校保育コースの皆さんの左手の練習風景「保育の学び」の「音楽」のサポート講座でもあります。



基礎知識を学んだ上でピアノ演奏に挑戦です。「初めて曲を弾いて、嬉しかった。」みんな満足していましたね。

高校生セミナーでは、「保育の今」や多くの高校生が不安に感じているピアノなどの楽器演奏についても、「楽しく学び、演奏する喜び」を体験していただき、自ら、意欲的に学ぶ楽しさを感じてもらいたいと期待しています。

〈高校進路部、連携校・協力校、系列高校との情報交換会〉

①高校教員向け進路説明会・情報交換会 令和3年5月18日 20校参加

神栖高校・八街高校・小見川高校・姉崎高校・袖ヶ浦高校・生浜高校・松戸南高校・佐倉西高校・佐倉東高校・佐倉南高校・四街道北高校・船橋豊富高校・佐原白楊高校・柏井高校・千葉学芸高校・茂原北陵高校・敬愛学園高校・千葉敬愛高校・横芝敬愛高校・敬愛大学八日市場高校

②系列高等学校との連携会議 令和4年2月18日

③高大連携協定締結高校との連絡会議 令和4年3月（書面開催）

〈高大連携・高大接続教育のこれから〉

1 高等学校における「家庭科」の学び

高等学校の教育課程も大きく変わり家庭科の授業の中で、「保育」に関する科目は令和4年度から「保育基礎」「保育実践」になり、内容も、より実践的で職業に結び付いたものになります。

高等学校家庭科教育の歴史には、保育士養成の仕組みがあり、保育士の育成を担ってきた歴史があります。今でも「保育検定」の仕組みがあり、家政科が設置されている高校や家庭科の教員の取り組みにより維持されています。検定の内容は、本学のような保育士養成校の教育内容と重なり、保育の現場で役立つ内容になっています。こうした高校での学びが十分活かし切れていない所を、本学では、しっかりと大学での学びに繋げていきたいと考えています。千葉県立四街道北高等学校との連携は、巻頭の学長の言葉にあるように、これからの高大接続教育の在り方を模索する一つのモデルです。

2 高等学校における「福祉」の学び

厚生労働省の人口動態統計によれば、2025年の超高齢化社会の人口動態予測では、一人が、二人を支える構図が予測され、早くからこうした社会構造に向けた福祉人材の育成が言われ、高等学校教育においても、社会のニーズに応える形の教育が模索されてきました。

千葉県はそうした背景を受け、県立松戸向陽高等学校を「福祉教育」の拠点校として位置づけ、各学区に1校「福祉コース」設置校を配置しています。介護に関する実践的な学びや現場での実習により、所定の基準に到達できれば、「介護職員初任者研修終了」の資格が取れ、介護職として有資格で働くことができる仕組みです。また拠点校の松戸向陽高校は福祉教養科という専門学科におい

て「介護福祉士」という、より専門的で取得の難しい国家資格の受験ができる県内唯一の高校として、大学生や福祉施設で働く社会人と同様の試験に挑戦し、その平均合格率よりはるかに高い合格率で、「介護福祉士」の育成に貢献しています。

このような学習や現場体験を経験してきた高校生の、使命感や「命」に向き合う姿勢は、保育や教育に通じ、まさしく本学が目指す学生像です。

また、これらの高校では、乳児も含めた子どもについても、また広く障害のある人々についての学び、ユニバーサルデザインの学びを積み上げています。こうした高校生が社会に出ていくとしたら、まさしく社会貢献のできる優れた人材になると期待できます。

保育職は福祉職であり、教育もまた、人々の幸せな生活の為にあると考えれば、「福祉職」でもあり、福祉コースや福祉の学びのある高等学校との連携は、高等学校にとっても、大学にとっても、今後重要な関係になると期待しています。

〈千葉敬愛短期大学との高大連携協定締結高校〉

(平成28年 5月) 我孫子高等学校・君津高等学校

(平成29年10月) 土気高等学校

(平成30年 3月) 成田北高等学校

(平成30年 6月) 館山総合高等学校

(令和元年 5月) 浦安高等学校・四街道北高等学校・小見川高等学校・立松尾高等学校

(令和 3年 3月) 若松高等学校・佐倉西高等学校・佐倉南高等学校

(令和 4年 3月) 千城台高等学校・佐原白楊高等学校

(文責：佐久間敦子)

保育士の学び直し・学び深めに関するニーズ調査

1 はじめに

本学は、これまでさまざまな地域連携事業を進めてきている。しかし、保育士の方々を直接の対象にした事業は実施していなかった。今般、保育士の方々の学び直し・学び深めの機会を作れないか、役に立えないかと考えるに至った。そこで、まず、どのような御希望・御意見をお持ちなのかを伺うことにし、アンケートを実施した。

なお、アンケートを実施するに当たっては、佐倉市役所こども支援部こども保育課の御助言・御支援をいただいた。

2 アンケートについて

- ①対 象：佐倉市内の保育園、認定こども園、小規模保育事業所の計38施設に在職（令和3年4月現在）
されている715名
- ②時 期：令和3年7月～8月上旬
- ③形 式：ウェブによる回答または書面による回答
- ④回答数：322（回収率45%）

3 質問項目

- 1 あなたご自身のことについてお答えください
 - 1-1 保育士経験はどのくらいですか。
 - 1-2 お勤め先は以下のうちどれにあたりますか。差し支えのない範囲でお答えください。
 - 1-3 これまでに園外での研修に参加したことがありますか。
 - 1-4 1-3の質問で「ある」と回答した方にお聞きします。これまで参加した園外の研修がどのような研修であったか、差し支えのない範囲で記入してください。
- 2 学び直し・学び深めの機会があったら、受講したいと思いますか
- 3 2の質問で「受講したいと思う」と回答した方にお聞きします。
「受講したいと思わない」と回答した方は、4の質問に進んでください。
 - 3-1 受講するための条件となるのはどのようなことですか。
 - 3-2 3-1の質問で「平日の午後に設定されている」を選択した方は、何曜日の何時からなら受講しやすいのかを記入してください。
 - 3-3 受講したい内容はどのようなものですか。
 - 3-4 「保育技術に関するもの」「自己の能力の向上に関するもの」を選択した方にお聞きします。具体的にどのような内容を受講したいかを記入してください。
- 4 2の質問で「受講したいと思わない」と回答した方にお聞きします。受講したいと思わない理由を差し支えのない範囲でお答えください。
- 5 学び直しや学び深めに関して、考えておられること、抱えておられることなど、自由にお書きく

ださい。

4 アンケート結果概要

1 回答者プロフィール（経験年数、研修経験）

1-1 経験5年以上10年未満の方が最も多い。また、25年以上という方も1割おられる。

保育現場での保育士の構成が反映されていると考えられる。同時に、ある程度の保育経験があるからこそ、学び直し・学び深めへの関心が高く、回答していただけたと思われる。25年以上という方の場合は、管理職等の責任ある立場、指導する立場に立たれているために、必要感を持たれたと考えられる。

1-2 保育園勤務の方がほとんどである。

対象は38施設中37施設が保育園や保育事業所であった。同じように幼児教育を担う幼稚園教諭は、対象としなかった。

1-3 8割強の方が園外での研修に参加した経験がある。

多くの方が園外での研修の場を求め、参加している。ただし、自主的な参加なのか、義務づけられた参加なのかは、ここでははっきりしない。

1-4 研修内容は保育技術や保育内容に関するものが多い。

さまざまな内容の研修会に参加している。子どもの発達や支援に関する研修、保護者支援や子育て支援に関する研修、管理・マネジメントに関する研修も挙げられている

2 学び直し・学び深めへの意識

約9割の方が学び直し・学び深めの機会を望んでいる。受講を希望する方が9割近くで、極めて意識が高いと言える

3 受講を希望する上での条件、内容

3-1 保育活動に穴をあけないことが第一条件である。

受講するための条件で最も多かったのは、「代替の保育士が確保されている」であった。次いで、「出張扱いになる」「参加費が安い（材料費を含まない）」「駐車場がある」となった。

日常の保育活動を優先して考えていると言える。費用の問題、移動のしやすさも大きな条件になっている。

曜日については、土曜日（65名）が多く、日曜日（34名）、平日の午後（33名）であった。

3-2 平日なら金曜日の14～15時以降が参加しやすい。

大学の活動を考えると、平日に開講ということが考えられるが、平日希望は1割強であった。その中で多かったのは金曜日14～15時以降であった。他の曜日、時間帯の希望は少ない。

3-3 幼児の発達や発達障害に関する内容を学びたいという思いが多い。

受講したい内容として最も多かったのは「幼児の発達や発達障害に関するもの」であった。次いで「保育技術に関するもの」「幼児の心理に関するもの」「自己の能力の向上に関するもの」の順であった。

対象となる幼児の発達や彼らの心理への理解を深めたいという意識が高いと言える。また、保育技術を学び直して自分の能力を向上させたいという思いも強く感じられる。

3-4 子どもや保護者への対応力を高めたいと考えている。

「保育技術」「自己の能力の向上」に関する内容として、多く挙げられていたのは、子どもや保護者への〈対応力〉であった。特に障害のある子どもや外国籍の子どもへの言葉掛けや支援、保護者対応の仕方が懸案になっている。

また、〈活動〉として、普段の実践で使える遊びや歌、体操を学びたいという声も、〈対応力〉に次いで多かった。

3-5 年に1、2回の講演会に参加する形での受講希望が多い。

「年1、2回の講演会の形で開催される講座に参加する」という形態での受講を望む方が最も多かった。

「動画配信された講座を自身の都合の良い時に視聴する」「オンライン形式での講義を受講する」と続いた。

日常の保育業務の忙しさ、時間確保の困難さが窺える結果である。

4 受講したいと思わない理由

受講したいと思わない最大の理由は、時間がないことである。

「受講したいと思わない」理由として、最も多く挙げられたのは、〈時間がない〉ことであった。日々の業務をこなすこと、家庭と両立させることがまず大事であり、そのために研修まで手が回らないということであった。

時間がないのでしたくてもできない、という状況にあると言える。

5 学び直し・学び深めについての思い

学び直し・学び深めにより、自己の知識や技術を高め、よりよい保育活動につなげたいと考えている。

考えていること、抱えていることを自由に記述していただいた。これ以前の4までの質問の回答と重なる部分も多いが、改めて整理する。

概括的に、時代の変容に伴って保育も変化していることから、学び直し・学び深めの必要性を感じており、「日常の保育活動に直接的に結びつくもの」や「自己の意識や知識の向上に役立つもの」を学びたいと考えている。また、オンラインやオンデマンドで日常の保育活動に影響があまり出ない形での受講を望んでいると言えよう。

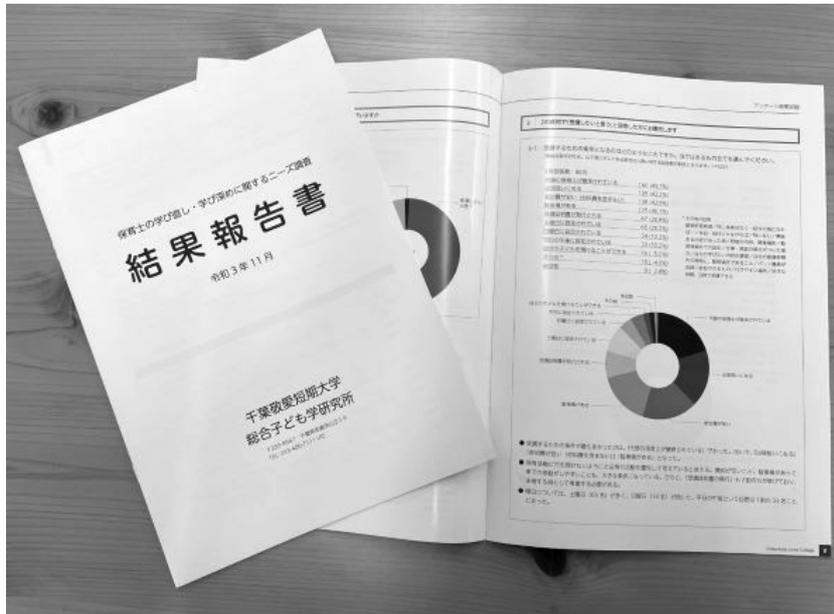
5 おわりに

日常的な業務に加えて新型コロナ感染対策で御多忙な中、多くの方に御回答いただいた。改めて感謝申し上げたい。

御回答を拝見し、保育士の皆様が、子どもたちに真摯に向き合い丁寧に関わっておられること、それ故に非常にお忙しい日々を送っておられることがよく分かった。また、厳しい条件下にあるにもかかわらず、子どもや保護者理解の更なる深化、保育技術の獲得と向上を志向しておられる方が多くいらっしゃることも、実感した。更には、改善を必要とする課題も知ることができた。

お寄せいただいた御要望・御提案等を今後の活動に生かしていきたい。

(文責：鈴木健一)



Ⅱ 研究論文等

保育士養成校におけるソルフェージュ教育の必要性(2)

音楽表現とリトミックからの実践

岡崎 裕美・二見 美千代・佐久間 敦子

Necessity of the Solfege Education in a Training School for Nursery-school Teachers (Vol. 2)
Practice by Music Representation and Rhythmic

Hiromi OKAZAKI / Michiyo FUTAMI / Atsuko SAKUMA

キーワード：保育士、音楽の基礎、読譜力、リズム遊び、音楽の楽しみ方

I 研究の背景

保育士養成課程における音楽は、ピアノ、子どもの歌、遊び歌、楽器遊び等、さまざまな音楽的技術を求められることを前提に指導される。幼稚園教育要領解説¹⁾においては、「音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。」と記載されている。また、保育士養成校においては、幼稚園児よりも発達年齢の幅が広いこと、保育士が習得しておくべき音楽的な知識や実技は、より幅広く身につけておくことが必要とされる。

在学中の保育実習体験は、将来の保育者としての自信にも大きく関わってくるため、器楽（ピアノ）の授業の到達目標は、日常の保育の中での歌、年中行事や季節の歌、スタンダードな子どもの歌の弾き歌いに向けての指導が望ましいと考える。

昨今、学生の練習法が様変わりしていることは否めない。YouTubeの動画や、友人が弾いているのを見て真似をするという傾向である。そもそも自分で楽譜を読む努力をすることなくピアノを弾いているということである。卒業後の初任保育者にとっては、日常の保育や発表会に向けての準備に追われ、自分のピアノ練習にかかる時間にも制限があるため、在学中に音楽の基礎知識や楽譜を読む力を身につけておくことがとても重要であると考えられる。

本実践は、2021年3月の年報「保育士養成校におけるソルフェージュ教育の必要性 音楽表現とリトミックからの実践」の続編である。

II 研究の目的

本学においては、年々、入学時のピアノ経験者が減少傾向にある現状を踏まえ、2年間という短い期間で保育現場に生かせるピアノの技術を習得するには、楽譜から音や曲のニュアンスを自分で読み取ることそのものを楽しめるような指導の在り方を検討し直す必要があると考える。

また、ピアノ経験者においては、子どもの歌のレパートリーを増やすことや、同じ楽曲でも様々な音楽的なアレンジができるようなスキルアップを目標として取り組むよう指導する。

ピアノ未経験者・経験者、共に音楽的な知識（楽典）と読譜力（ソルフェージュ）を身につけることと、ピアノの実技訓練を併用することで、より効率的にピアノ演奏技術や弾き歌いの習得に繋がると考える。

今年度は、ピアノ初心者のソルフェージュ力の入口となる「リズム」を中心に、リトミック、リズム遊び、ボディパーカッション、ピアノ演習、楽器遊びを実施し、保育に特化した短大での音楽教育の在り方を探る。

そのためにはピアノを弾くこと、歌を歌うこと、それらを人前（子どもたちと一緒に）で表現することに苦手意識を持たないような指導法、つまり学生一人一人の強みを引き出し、音楽に興味を持てるよう促しながら楽しく学び、保育者として音楽を幅広い角度から習得することを目的とする。

Ⅲ 方法

(1) オープンキャンパス 「リトミック～幼児の潜在的な音楽感性を育てる～」

2021年4月11日開催、対象者：高校生14名、担当：二見

本講座では、リトミックについての基礎知識として、1.「創案者について」、2.「対象者について」、3.「主に使用する教具について」、4.「リトミックの主な目的について」の4点の解説と実践を行った。実践では、「カノン遊び」について様々な体験を行った。カノンとは、先行パートを後続パートが模倣することであり、音楽的には輪唱することや輪唱曲のことを示すのだが、今回は単に歌うことや演奏することだけではなく、リトミックの手法を用いた取り組みとして身体を使った表現を行った。

1) 身体表現によるリズムカノン「ウォーミングアップ」

初めに、リズム遊びのウォーミングアップとして身体の動きを伴ったカノンを行った。生徒がカスタネットを持ち、指導者が行うリズムを表現した動きと同じように身体の周りでカスタネットを鳴らす取り組みである。これは、簡単なリズムを使ったカノンであるが、次々に変化する3つのリズムをテンポよく真似するためには集中力と記憶力が必要とされる。(表1)

表1 リズムカノン ①

動きとセリフ	： うえで	したで	右側で	左側で
先行（指導者）	： ♪ ♪ ♪ ●	♪ ♪ ♪ ●	♪♪♪ ●	♪♪♪ ●
動きとセリフ	：	♪ ♪ ♪ ●	♪ ♪ ♪ ●	♪♪♪ ●

次に、リズムにダイナミクス（音の強弱）の表現を加えた「カノン遊び」を行った。これは一つ一つのリズムにダイナミクスの変化を加えることにより、先に行ったカノンと比較すると表現の要素が増えることとなる。音の強弱を表現するためには、楽器の鳴らし方にどのような工夫が必要であるかということを理解する機会となる。例えば強い音を表現するためには、身体の動きの大きさを変えずに力を強くするより身体や腕を大きく動かして楽器を鳴らす方がより自然に表現しやすく、弱い音を表現するためには、身体の動きはより小さく動かす方が表現しやすいということが理解できるようになる。(表2)

表2 リズムカノン②

ダイナミクス	： forte	piano	crescendo	decrescendode
動きとセリフ	： まえで	後ろで	下から上に	上から下に
先行（指導者）	： ♪ ♪ ♪ ●	♪ ♪ ♪ ●	♪♪♪♪	♪♪♪♪
動きとセリフ	：	♪ ♪ ♪ ●	♪ ♪ ♪ ●	♪♪♪♪

2) 身体表現によるカノン「こぶたぬきつねこ」

子どもが親しみやすい幼児曲「こぶたぬきつねこ」を使用したカノンを行った。幼児曲で使用されている多くのカノンは、歌詞とメロディーの構成が一致していることが多いため、小さな子どもでも気軽に楽しむことができる。

初めに、子どもが興味を持ちやすいように、「こぶた」、「たぬき」、「きつね」、「ねこ」の4つの動物の絵カードをめくりながら歌い、歌詞が頭に入った段階で歌詞に手振りをつけて歌う取り組みを行った。(資料1)

この取り組みでは、先に行ったダイナミクス表現を応用し、音の強さと手振りの大きさを繋げた動きを行った。例えば、強い音で歌う時は大きな動きで表現し、弱い音で歌う時は小さな動きで表現した。

資料1 「こぶたぬきつねこ」手遊び



(出典) ダルクローズ教育法によるリトミックコーナー

次に、色々なニュアンスで同曲を歌い身体表現をする取り組みを行った。音楽では様々なニュアンスを表現することができるが、この取り組みでは1. 「元気よく」、2. 「困った感じ」、3. 「急ぐ感じ」の3つのニュアンスを表現した。また身体表現をする際、手の動きが視覚的に分かりやすいよう両手の指に紙花を付けた。指導者がピアノで各ニュアンスに沿って演奏し、生徒はそのピアノの音を聴いて表現方法を判断した。

さらに、スタッフの学生4名が、「こぶた」、「たぬき」、「きつね」、「ねこ」の絵が描かれたカチューシャを被ってそれぞれの動物役としてリズムを使った身体表現を行い、生徒がその動きの真似をするとい

表3 動物のリズムと身体表現方法

動物名	リズム	身体表現方法
こぶた	♪♪♪♪	肩をたたく
たぬき	♪♪♪	腰を振る
きつね	♪♪♪♪	両手を口に当ててから手を振る
ねこ	♪♪♪	膝に触れてから手を上にあげる

う取り組みを行った。各動物のリズムと身体表現方法は次の表で示す。(表3)

これらの身体表現の動きについては、初めにスタッフの動物役が各リズムの動き方を示し、続いて生徒が動きの真似を行った。使用したリズムは次の取り組みを考慮し、楽曲「フレールージャック」のリズムを使用した。指導者がピアノでこの楽曲を伴奏し、音楽に合わせてながらスタッフと生徒の身体表現によるリズムカノンを行った。

3) 打楽器によるリズムカノン「フレールージャック」

参加者全員を二つのチームAチームとBチームに分け、全員で打楽器によるリズムカノンを行った。楽曲は引き続き「フレールージャック」を使用し、リズムを明確に表現するために打楽器はスズとタンブリンを採用した。Aチームにはスズを、Bチームにはタンブリンを配布し、チーム毎に「フレールージャック」のリズムと身体表現方法を確認した後、Aチーム(先行)とBチーム(後続)のカノンを行い、またその逆も行った。(資料2)

資料2 「フレールージャック」カノン演奏順 「フレールージャック」：フランス民謡



4) 3つのパートによるリズムカノン「カエルの歌」

楽曲「カエルの歌」を使用し3つのパートでカノンをする取り組みを行った。初めに、全員で「カエル歌」のリズムを打楽器で鳴らしながら歌い、歌詞とメロディーを確認した。使用楽器は、Aチームがスズ、Bチームがタンブリン、指導者がカスタネットとし、Aチーム（先行）、Bチーム（後続①）、指導者（後続②）で歌とリズムカノンを行った。さらに、全チームが先行、後続①、後続②を体験できるように、演奏順を交代して行い、またその逆も行った。（資料3）

資料3 「カエルの歌」リズムカノン譜 「カエルの歌」：ドイツ民謡

カスタネット

かえるのうたが きこえてくるよ クワツクワツ クワツクワツ ケロケロケロケロ クワツクワツクワツ

4/4 ♪♪♪♪ | ♪♪♪♪ | ♪♪♪♪ | ♪♪♪♪ | ♪♪♪♪ | ♪♪♪♪ ||

スズ

かえるのうたが きこえてくるよ クワツクワツ クワツクワツ ケロケロケロケロ クワツクワツクワツ

4/4 ♪♪♪♪ | ♪♪♪♪ | ♪♪♪♪ | ♪♪♪♪ | ♪♪♪♪ | ♪♪♪♪ ||

タンブリン

かえるのうたが きこえてくるよ クワツクワツ クワツクワツ ケロケロケロケロ クワツクワツクワツ

4/4 ♪♪♪♪ | ♪♪♪♪ | ♪♪♪♪ | ♪♪♪♪ | ♪♪♪♪ | ♪♪♪♪ ||

(2) 体験講座 「ミュージックベルを演奏してみよう～♪きらきら星～」

2021年4月25日配信、対象者：WEB視聴者13名、担当：二見

本来は対面講座の予定であったが、コロナウイルス感染予防の観点から動画配信での講座となった。

1) 講義内容

1. 「ハンドベルとミュージックベルの違いについての解説」、2. 「ハンドベルとミュージックベルの歴史についての解説」、3. 「実践方式でのミュージックベルの基本の持ち方と奏法の種類の紹介」、4. 「実践方式での楽曲演奏方法の解説」、5. 「楽曲演奏」、6. 「課題」とした。このうち、ここでは「実践方式での楽曲演奏方法の解説」と「楽曲演奏」、「課題」について紹介する。

2) 実践方式での楽曲演奏方法の解説

ミュージックベルは、一人でも複数人でも演奏できるため応用性の高い楽器であるが、本講座では初心者を対象とするため一人1音を担当し複数人で演奏することを紹介した。楽曲「きらきら星」は6つの音で構成されているため、ハ長調では「ド、レ、ミ、ファ、ソ、ラ」の6つのミュージックベルが必要となる。複数人でミュージックベルを演奏する場合、演奏の準備として楽譜から自分の担当音を見つけることが必要になるため、各自の演奏の妨げにならないことも考慮し事前作業として楽譜上の担当音に色を付けることを紹介した。例えば、次の資料4は「ド」を担当音に印をつけたものである。実際に

は「ド」に赤色の○を記載している。

このように「レ」「ミ」「ファ」「ソ」「ラ」も同様の作業を行い、担当音別の色付け楽譜を作成したものも合わせて紹介した。個人の練習方法の解説では、指導者が伴奏に合わせて各音のベルを演奏したものを紹介した。

資料4 「きらきら星」ベル担当音「ド」の楽譜

フランス民謡

The image shows a musical score for the French folk song 'Twinkle Twinkle Little Star'. It consists of three staves of music. Above the notes, there are circles containing letters representing notes: C, G, A, F, E, D. Below the notes, there are circles containing the letter 'D', indicating the bell tones for that note. The lyrics 'ソソ ララソ ファファミミ レレ' are written below the notes. The score is in 3/4 time and G major.

資料5 「きらきら星」ハーモニー付楽譜

フランス民謡

The image shows a musical score for the French folk song 'Twinkle Twinkle Little Star' with piano accompaniment. It consists of four staves of music. The tempo is marked 'Allegretto'. The score is in 3/4 time and G major. The piano accompaniment is written in the left hand, and the melody is written in the right hand. The lyrics 'ソソ ララソ ファファミミ レレ' are written below the notes.

3) 楽曲演奏

ミュージックベルの演奏では、一人の担当ベル数を増やすことやベルの持ち替え作業を加えることにより少人数でも楽曲を演奏することができる。本講座では、指導者2名が担当ベルを3本ずつ合計6本使用し演奏することで少人数によるミュージックベルの演奏の紹介とした。ミュージックベルの演奏は、皆でメロディーを奏でる楽しさの中に、相手に音を繋ぐ責任感や相手と共に音楽を作り上げることで協調性を養い、奏でた響きを聴き合うことでハーモニーを感じることができる。

資料5は、「きらきら星」のメロディーにミュージックベル演奏に適したハーモニーを筆者が加えたものである。楽譜内に示されている波線は、ミュージックベルの奏法の1つであるトレモロ奏法を示している。長い音符を演奏する際、音がしっかり残り他の音とのハーモニーを感じやすくするためである。さらに、トレモロ奏法ではダイナミクスを表現しやすいため、表情豊かな演奏が可能になる。また、波線のない音符はスプリング奏法で演奏することとした。

4) 課題

本講座の振り返りのため1.「ベルの手元を示されているアルファベットは何を表しているか」、2.「今回学んだ2つの奏法の名前は何か」、3.「ベルを演奏することによってどんなことが身につくと期待できるか」の3点の項目を課題とした。

(3) オープンキャンパス 「リズム遊び～ボディパーカッション」体験

2021年6月20日開催、対象者：65名、WEB視聴者2名 計67名、担当：岡崎

1) 模擬授業(1) 遊びながら身につけよう！『保育に生かせるリズム遊び「まねっこリズム」』

1) - 1 4分音符と8分音符を知ろう！

本実践では、まず、いろんな音符の長さを理論から理解すること、次に、体で感じながら4分の4拍子の感覚を体得する取り組みを行った。教材として取り上げた「まねっこリズム」は、幼児にとっては遊びながらリズム感を習得することができる遊びである。本実践では、4分の4拍子を例にとってリズム遊びをする取り組みを行った。「まねっこリズム」(高附恵子/作詞作曲)の基本的な遊び方は、リーダーとなる人が作った4分の4拍子の1小節分のリズムを、他の全員(まねっこ隊)が真似るというものである。

遊び方の説明の前に、4分の4拍子とはどんな拍子であるかを説明した。4分の4拍子とは、1小節の中に4分音符が4つ分入る拍子である。4分音符を○1個に例えると、1小節の中には、○が4個分○
○
○
○入ることになる。リーダーが作ったリズムをまねっこ隊がまねっこをするためには、1拍の隙間、つまり、まねっこを受け渡すためのタイミングが必要であるため、最後の1拍(4拍目)は休符とすることを伝え、○
○
○
●(4拍目は4分休符)となることを説明する。(●=4分休符)この休符の時に「ハイ！」と声を出して、まねっこ隊にバトンタッチを促す。

次に、4分音符の半分の長さの8分音符を説明する。8分音符は○の半分の長さであることを説明し、4分音符1個は、8分音符2個に分けられる(※ここでは8分休符の説明はしない)。リーダーは、4分音符、4分休符、8分音符2個を組み合わせて、1小節間(○4個分)のリズムを作ることにした。

(例1) 「リーダー」 ♪♪♪●(タンタンタンウン) →

「まねっこ隊」 ♪♪♪●(タンタンタンウン)

(例2) 「リーダー」 ♪♪♪♪●(タンタタタンウン) →

「まねっこ隊」 ♪♪♪♪●(タンタタタンウン)

(例3) 「リーダー」 ♪♪♪♪♪●(タタタタタンウン) →

「まねっこ隊」 ♪♪♪♪♪●(タタタタタンウン)

1) - 2 動物の鳴き声をリズムにしてみよう！

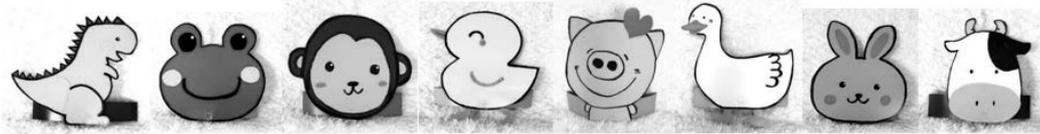
いろんな動物の鳴き声をリズムに置き換えてみる。その鳴き声のリズムで4分の4拍子の1小節分のリ

リズムを作る。それぞれの動物の動きをイメージすることで、より表現豊かに音楽的（立体的）にリズムを体感することができる。

（動物の鳴き声の例）「ガアガアガア」= 』 』 』 ●（●=4分休符）

次に、それぞれの動物の特徴的な動きをイメージして身体表現をする。発表会などでは、お面（資料6）をつけることにより、より楽しく表現することができる。

資料6 「まねっこリズム」お面の例



1) - 3 「まねっこリズム」の音楽に合わせてやってみよう！

リーダーがそれぞれの動物の特徴的な動きのジェスチャーをした後に、まねっこ隊が真似をする。

この時に大切なことは、例えば、あひるの「ガアガアガア」の鳴き声を動きと同時に発しながらまねっこをすることである。幼児の表現の原点は、なりきることから始まる。鳴き声を発することによって、より動物の特徴的な動きが具体的にイメージされ、いきいきと豊かな身体表現となる。

資料7 「げんきもりもり」のリズム譜（筆者作成）

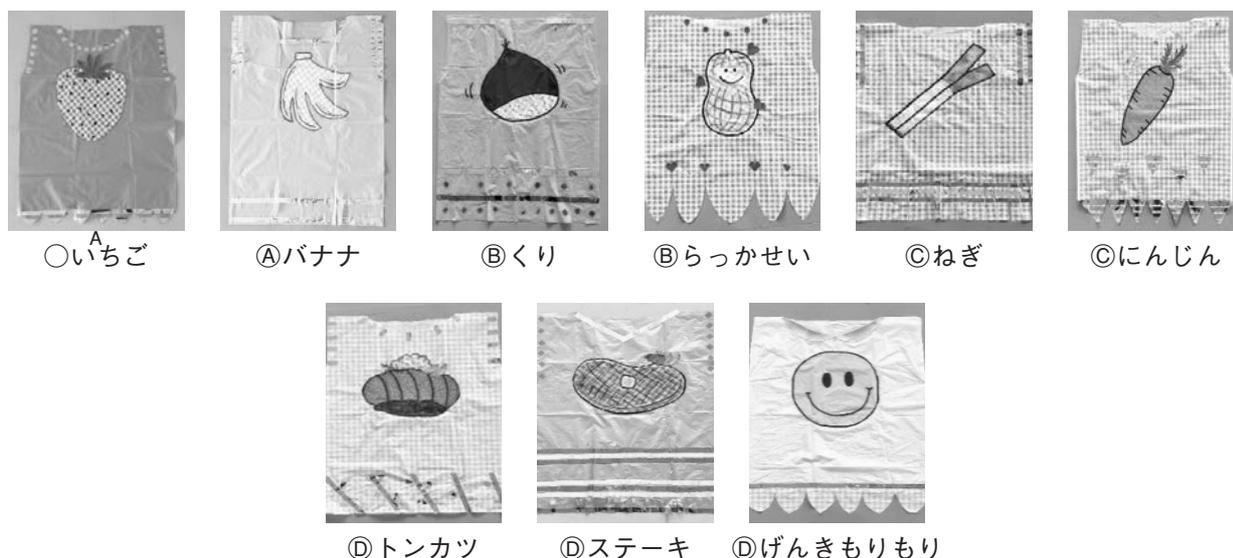
2) 模擬授業(2) ボディパーカッションに挑戦しよう！

ボディパーカッションは、体を楽器にして、音楽を表現する音楽活動であり、リズム遊びとボディパーカッションは密接な関係にある。子どもたちにとってのボディパーカッションは、体を使った楽しいゲームのようなものであり、歌が苦手でも、楽器の演奏ができなくても、楽譜が読めなくても、誰でも参加できることが特徴である。本実践では、筆者のオリジナル曲「げんきもりもり！」（資料7）で実践した。

2) - 1 言葉のリズムを音符で表してみよう！

本実践では、「いちご」「バナナ」「くり」「らっかせい」「ねぎ」「にんじん」「トンカツ」「ステーキ」

資料8 「げんきもりもり！」の衣装例



などの言葉を使用した。これらの言葉をラップ的なリズムに置き換えて、いちご＝♪♪♪、バナナ＝♪♪♪、くり＝♪、らっかせい＝♪♪♪♪、ねぎ＝♪♪、にんじん＝♪♪、トンカツ＝♪♪♪♪、ステーキたべて＝♪♪♪♪♪♪、最後に、げんきげんき もーりもり＝♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪を付け加えた。

さらに、各パートリーダーは衣装（資料8）をつけることにより、それぞれのパートの流れをわかりやすく印象づけるよう工夫した。

2) - 2 リズムを3パート（A・B・C）のモチーフと、

④を含めた全員で行うモチーフの4つのモチーフを作る。

①パートのモチーフ：いちご・バナナ

②パートのモチーフ：くり・らっかせい

③パートのモチーフ：ねぎ・にんじん

④を含めた全員で行うモチーフ：トンカツ・ステーキたべて・げんきげんきもーりもり

2) - 3 幼児の簡易楽器を使って、楽器遊びに展開しよう！

①・②・③のパートのリズムを、カスタネット、タンブリン、スズ、を使って合奏スタイルに展開する。（④の担当楽器は、トンカツ＝カスタネット、ステーキ＝タンブリン、げんきもりもり＝スズとした）

①パートの楽器：カスタネット

②パートの楽器：タンブリン

③パートの楽器：スズ

④を含めた全員で行うパートの楽器：カスタネット・タンブリン・スズ

この合奏は、 $\text{①} \rightarrow \text{①} + \text{②} \rightarrow \text{①} + \text{②} + \text{③} \rightarrow \text{①} + \text{②} + \text{③} + \text{④}$ という構成である。いろんな楽器が重なっていくことで、音が厚くなっていく楽しさを味わうことができる。

（4） 高大連携事業「初心者のための音楽基礎講座」

2021年10月9日開催、対象者：高校生29名、担当：岡崎・二見

1) 楽譜を楽しく読んでみよう！

五線譜の名前、五線譜の中では表せない高音域と低音域の音符の書く時に必要な加線の書き方を説明した。大譜表は、最初に説明した五線の左端にト音記号とヘ音記号を正確に書き、高音部譜表と低音部

譜表を作る。それを縦線でつなぎ、{ カッコで括る。

音符の読み方は、手を叩きながら口頭でリズムを唱えるための訓練である。唱え方は指導者によって多少異なるが、本実践では、4分音符＝タン、4分休符＝ウン、8分音符＝タ、8分休符＝ウ、とした。拍子記号については、4分の4拍子を例に取り、ト音記号とヘ音記号のすぐ右隣りに書くこと、また、拍子記号は、曲のどこかで拍子が変わる場合以外は、最初のみとする。このように、譜面の一つ一つの表記を詳細に理解することが必要であると考えた。(資料9)

資料9 配付プリント

夏休み企画 『音楽の基礎講座(1)』 音楽用 2021.10.9

●楽譜を楽しく読んでみよう！ (15分)

1. 五線譜

五線の名前と加線

2. 大横表 (ト音記号・ヘ音記号)

3. 音符(休符)の読み方

4分音符	♪ニタン	4分休符	クニウン
8分音符	♪ニタ	8分休符	クニウフ

- ・符点4分音符 ♪ニターアタ
- ・2分音符 ♪ニターアー
- ・符点2分音符 ♪ニターアーアー
- ・全音符 ♪ニターアーアーアー

4. 拍子記号

- ・4分の4拍子は、1小節に $\frac{4}{4}$ が 4つ入る拍子
- ・4分の3拍子は、1小節に $\frac{3}{4}$ が 3つ入る拍子

4分音符 $\frac{4}{4}$ とすると

- ・4分の4拍子は、 $\frac{4}{4}$ = $\frac{4}{4}$ 入る拍子
- ・4分の3拍子は、 $\frac{3}{4}$ = $\frac{3}{4}$ 入る拍子

●リズムで遊ぼう！ (30分) 『リズムエクササイズ』にチャレンジ！

1. 音符で遊ぼう！ $\frac{4}{4}$ $\frac{3}{4}$

4分の4拍子

右手 $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$

左手 $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$

4分の3拍子

右手 $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$

左手 $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$

2. 4分休符も使ってみよう！

4分の4拍子

右手 ① $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ ② $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ ③ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$

左手 ① $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ ② $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ ③ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$

4分の3拍子

右手 ① $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$ ② $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$ ③ $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$

左手 ① $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$ ② $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$ ③ $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$

3. グループで、リズムを作ってみよう！

4分の4拍子

右手 ① $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ ② $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ ③ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$

左手 ① $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ ② $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ ③ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$

4分の3拍子

右手 ① $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$ ② $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$ ③ $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$

左手 ① $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$ ② $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$ ③ $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$ $\frac{3}{4}$

4. 2人組で、タンブリン・カスタネットを使ってリズム遊びをしてみよう！

右手 (カスタネット)

左手 (タンブリン)

2) リズムで遊ぼう！

音符で遊ぼう！ 4分音符と4分休符、8分音符を使って、4分の4拍子、4分の3拍子の1小節間のリズムを作ってみる。二人一組になり、お互いのリズムを聴き合いながら手で叩いてみる。次に、右手と左手のリズムを交代して叩いてみる。これは、両手でピアノを弾く際に、右手のリズムと左手のリズムがどのようなタイミングで構成されているかを聞き分けるための理解に繋がる。(今回は時間の都合で、「4.」の楽器を使ってのリズム遊びは実施できなかった。)(資料9)

3) 鍵盤を弾く準備をしよう

ここでは、初心者でも容易に演奏可能な楽曲として、両手とも「ドレミファソ」音のみで構成される楽曲「ちょうちょう」を弾くための準備を行った。

初めに、実寸大の2オクターブ分の紙鍵盤を使用し、鍵盤上の「ド」の位置を確認した。ト音記号の「ド」(上1点ハ音)とヘ音記号の「ド」(ハ音)の位置の違いを確認した。この際、じゃんけんをするように右手で「ゲー」と「チョキ」を作り、紙鍵盤の黒鍵部分のうち三つの東になっている部分に「ゲー」を、二つの東になっている部分に「チョキ」を置いて黒鍵の位置を確認することにより「ド」の鍵盤の位置を特定できることとした。また、紙鍵盤に連結された楽譜には鍵盤の位置に沿って音符が書かれており、その各音符に音名を記入することで楽譜の音名を確認した。これは、本講座における「楽譜を楽しく読んでみよう」の応用の取り組みである。

次に、鍵盤を弾く際の基本的な手の形として、テニスボールを軽く握るようなイメージを持つように指導した。今回の対象者は全員高校生であるため、多くの生徒が容易にイメージできるテニスボールを

取り上げた。ピアノを弾く際は指の打鍵の動作によって音を出す、この基本の手の形ができていることで打鍵を容易にすることができる。言い換えれば、この基本の手の形ができているとピアノの音を上手く出すことが難しくなる。このため、基本的な手の形について鍵盤を弾く前に確認した。

続いて、紙鍵盤を使用し、上1点ハ音から始まる「ドレミファソ」の位置に右手の「12345」指を、ハ音から始まる「ドレミファソ」の位置に左手の「54321」指を置いて各指の位置を確認した。このとき、それぞれ基本の手の形を維持し紙鍵盤上の爪先の位置に印を付けた。これにより鍵盤上の指の置く位置が視覚的に分かりやすくなり、また基本の手の形で弾くことを意識させることができる。

最後に、プリントに記載されている手のイラストに両手の指番号を記入し、実際に指を動かしながら指番号を確認した。

4) ピアノ実技「ちょうちょう」をアンサンブルしてみよう！

ここでは、楽曲「ちょうちょう」のアンサンブルの取り組みを行った。

初めに、メロディーと伴奏を構成する音符の長さを確認するためにリズムの手拍子を行った。今回使用した楽譜では、メロディーは4分音符と2分音符のみで構成され、伴奏は全音符のみで構成された単純なリズムのため、ほとんどの生徒は余裕をもって行うことができた。また、演奏の準備として楽譜の全ての音に音名と指番号を記入することにより音と各指の位置の確認を行った。本来ピアノ演奏をする際は、音名は楽譜に記入せず読譜をするのだが、今回は初心者を対象としていることと短時間で楽曲演奏をすることを目標としているためこの取り組みを取り入れた。

次に、各自の電子ピアノ※を使って手の形に気を付けながら片手ずつ「ドレミファソ」を弾き、実際の鍵盤で音の確認を行い、右手でメロディーを、左手で伴奏を弾いた。この時、実際に聞こえてくる音と音名を一致させるために、音名を言いながらゆっくり指を動かすこととした。

最後に、全員をA・B、2つのグループに分け、Aグループは右手でメロディーを、Bグループは左手で伴奏を担当し、全員で合わせるアンサンブルを行った。テンポについては、初めは遅いテンポで合わせ、次第に速いテンポで合わせることにした。電子ピアノ内臓のリズムに合わせて、Aグループ、Bグループが各組で弾いた後、A・Bグループ全員でアンサンブルを行った。アンサンブル時の電子ピアノ内臓のリズム名は「モーターシティ」、テンポは♩=100とした。また、A・Bグループの担当を交代し、再び電子ピアノ内臓のリズムに合わせて全員でのアンサンブルを行った。この際、多くの生徒は演奏することに慣れてきた様子がみられたため、先に行ったアンサンブルと比較して少し複雑なリズムで、かつ速いテンポを取り入れた。この時の電子ピアノ内臓のリズム名は「ファンキーシャッフル」、テンポは♩=110、120の2つのテンポである。

※電子ピアノ機種 ヤマハクラビノーバCSP-150

5) 「わくわくクイズ」と「どきどきクイズ」

本講座のまとめとして、音楽基礎知識のミニテストを行った。1.「ト音記号、ヘ音記号での音名を理解できるか」、2.「ト音記号、ヘ音記号の音を鍵盤と一致できるか」、3.「音符の長さの音価を理解できるか」、4.「音符や休符の読み方を理解できるか」、の4点についてクイズ形式の簡単なテストを10分程度で実施し、回答と解説を行った。採点は各自で行い回答用紙は提出不要としたため正答率は不明であるが、担当講師の目視確認では半数以上の生徒がおおよそ正解していた。(資料10)

資料10 ミニテスト問題

わくわくクイズ の音を使いましょう。

★1. 同じ並びになっているものを線で結びましょう。ト音記号と音名、ヘ音記号と音名をつないでみましょう。

★2. 下の音は、鍵盤のどの位置になるでしょう？一致する鍵盤に番号を書きましょう。

ときどきクイズ

★1. 音符・休符の計算をして、①②③は音符を、④は休符を1つ書きましょう。

① ♪ + ♪ = ② ♪ + ♪ = ③ ♪ - ♪ = ④ ♪ - ♪ =

★2. 次の読み方が合っていれば○を、間違っていれば×を書きましょう。

① ♪ ♪ → ② ♪ ♪ → ③ ♪ ♪ → ④ ♪ ♪ →

(5) 高大連携事業 「初心者のための音楽基礎講座」

2021年11月21日開催、対象者：高校生27名、担当：岡崎・二見

本講座は、同年10月9日に行われた「初心者のための音楽基礎講座」(以下、「前回の講座」とする)の続編として行われ、受講生は前回の講座を受講した生徒と今回初めて受講する生徒が混在するため、前回の講座の振り返りとその発展内容を行った。前回講座の振り返りは前述してあるため、ここでは発展内容を解説する。

1) 楽譜を楽しく読んでみよう！

1) - 1 五線の知識を正しく覚えて書いてみよう！(資料11)

前回の講座の中で、ト音記号とヘ音記号の書き方について、その形は漠然と知ってはいるが、実際に正確に書いたことがないことが判明したため、今回は説明の方法を改善して行った。ト音記号は、第2線から書き始めること、ヘ音記号は第4線から書き始め、2つの点は、第3間と第4間に書く。この時に、前回の講座ではここで日本音名の「ト」と「ヘ」を説明したことで少し混乱を招いたため、今回は、音部記号を書き始める場所と、形の書き方に留めた。

1) - 2 拍子記号・縦線・終止線を書いてみよう！

前回の講座の中で、終止線を五線譜の最後の右端ではなく、五線の途中に記入している生徒が多く見られたので、既成の楽譜を見せて説明を行った。

1) - 3 音名を書いてみよう！

音名とは、ある高さの音につけられた名前であり、音名表記の種類は、イタリア音名(ドレミファソラシド)、日本音名(ハニホヘトイロハ)、英・米音名(CDEFGABC)がある。ここで、最初に書いたト音記号の「ト」、ヘ音記号の「ヘ」の音名の意味が理解できた。英・米音名については、コードネームの項目で学ぶので覚えておきたい。

資料11 配付プリント

『音楽の基礎講座』 2021. 11. 21 (日)

1. ト音記号とヘ音記号を書いてみよう!

2. 拍子記号・縦線(じゅうせん)・終止線を書いてみよう!

3. 音名を書いてみよう! (音名表記)

イタリア音名 () () () () () () () () () ()
 日本音名 () () () () () () () () () ()
 英・米音名 () () () () () () () () () ()

4. 五線の名前と加線

5. 大鍵盤を作ろう!

6. 音符(休符)の長さをで表してみよう!

4分音符(♩) ♩ = とすると

- ・4分音符 ♩ (4分休符 ♭) = (りんご1個)
- ・2分音符 ♪ (2分休符 ♭) = (りんご2個)
- ・全音符 ○ (全休符 ♭) = (りんご4個)

8分音符(♪) ♪ = (りんご0.5個)

7. 付点について (付点=もとの音符の半分の長さを表す)

- ・付点4分音符 ♩ = (りんご1.5個)
- ・付点2分音符 ♪ = (りんご3個)

8. 拍子について

- ①4分の4拍子は、1小節の中に ♩ ♩ ♩ ♩ = 入る拍子
- ②4分の3拍子は、1小節の中に ♩ ♩ ♩ = 入る拍子
- ③4分の2拍子は、1小節の中に ♩ ♩ = 入る拍子
- ④8分の6拍子は、1小節の中に ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ = 入る拍子

9. 音符(休符)の読み方

4分音符 ♩ = タン 4分休符 ♭ = ウン
 8分音符 ♪ = タ 8分休符 ♭ = ウ

・付点4分音符	♩ = ターアタ
・2分音符	♪ = ターアー
・付点2分音符	♪ = ターアーアー
・全音符	○ = ターアーアーアー

10. リズムで遊ぼう! 『リズムエクササイズ』にチャレンジ! (別紙)

- ①4分の2拍子
- ②4分の4拍子
- ③4分の3拍子
- ④8分の6拍子

1) - 4 五線の名前と加線

前回の講座の中で加線の説明をしたが、実際に加線の書き方についての説明が不足していたことから、今回は、加線が必要な音符には、その音に達するまで、その都度何本かの加線を書く必要があることを追加した。例えば、二点ハは上第2線の上に音符を乗せるが、この時、上第1線、上第2線の2つの加線を書く必要があるということを説明した。同様に、下第1線、下第2線…以下についても、各音符一つ一つに何本かの加線を書く必要があることも付け加えた。また、1オクターブの範囲の説明も行った。

1) - 5, 6については、省略する。

リーダーがそれぞれの動物の特徴的な動きのジェスチャーをした後に、まねっこ隊が真似をする。

1) - 7 付点について

付点とは、元の音符の半分の長さを表すもので、付点音符は、元の音符の長さとその音符の半分の長さを足した長さの音符であることを説明した。

(例: 付点4分音符 = 4分音符 + 8分音符)

1) - 8, 9については、省略する。

2) リズムで遊ぼう! 「リズムエクササイズ」にチャレンジ! (資料12)

音符(休符)を声(タン、ウン、等)に出して読みながら、リズム譜を手で叩いてみる。2声になっているリズム譜は、2人組になってお互いのリズムを聴き合いながら合わせてみる。

時間の都合上、①②までしか実施できなかったが、今回は、タンブリン、カスタネット、ズズの楽器をそれぞれ担当してエクササイズに取り組んだ。音の違いでリズムの縦線がはっきりと理解できるようになった。

3) 鍵盤を弾く準備をしよう!

楽曲「カエルの歌」を両手で演奏することを考慮し、前回の取り組みに加え、右手の指を「ドレミファソ」から「ミファソラシ」の位置に変えるポジション変えを素早く行う取り組みを行った。

初めに、実寸大の紙鍵盤に基本の手の形で「ド」の位置に「1」指を置いた後すぐに「ミ」の位置に「1」指を移動するという動きを繰り返し行い、続いて「ドレミファソ」の位置に「12345」指を置き、す

資料12 リズムエクササイズ



ぐに「ミファソラシ」の位置に「12345」指を置くという動きを繰り返し行った。これは、1本の指でのポジション変えと5本の指全部でのポジション変えの練習である。実寸大の紙鍵盤を使用することにより、鍵盤を移動する際に必要な距離を感じ取ることを目的としている。

次に、左手の「5」と「1」の指で「ド」と「ソ」を同時に押さえ、重音を弾く取り組みを行った。これは、「カエルの歌」の伴奏にあたる部分のため、先述の右手の動きと同時に行うこととした。

4) ピアノ実技「カエルの歌」を両手で弾いてみよう！

本講座はピアノ初心者を対象とした講座であるため、ピアノ実技においては手の最小限のポジション替えのみ行うこととした。このため、両手奏が行いやすい楽曲「カエルの歌」を取り入れた。また、ピアノの鍵盤と椅子の高さの関係については、ピアノ学習の初期の段階で無理なくピアノを弾く姿勢を身につける上で重要であるため、各自の電子ピアノで実際の鍵盤の位置の確認とピアノを弾く際の姿勢についても合わせて解説を行った。

初めに、対象者が初心者であるため読譜にかかる時間の短縮を図り楽譜に音名と指番号の記入を行った。その上で、右手と左手の動くタイミングを正確に合わせるための練習として、まず片手ずつ鍵盤の蓋の上でリズムを打ち、次に両手合わせてリズムを打つ取り組みを行った。この際、リズムと音名を同調させるため、片手のリズム打ちの際は音名を歌いながらリズム打ちを行うことを取り入れた。

次に、実際の鍵盤で右手を2小節ずつ、4小節ずつ、8小節と少しずつ演奏部分を増やしながら模奏を行った。また、左手においてはほとんどが全音符で構成されているため、講師と同時に曲の初めから最後まで弾くことで音の確認を行った。

両手奏においては、右手のみの時と同様に2小節ずつ、4小節ずつ、8小節と演奏部分を増やす方法で模奏を行い、右手のポジション替えを含む箇所を重点的に繰り返し行った。

最後に、電子ピアノ内臓のリズムに合わせて全員で両手奏を行った。この際、初めは遅いテンポで演奏し、少しずつ速いテンポに合わせて演奏することとした。この時の電子ピアノ内臓のリズム名は「70s

カントリーポップ」、テンポは ♩ = 100、110、120の3つのテンポで行った。

5) 「わくわくクイズ」と「どきどきクイズ」

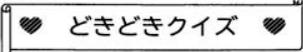
本講座のまとめとして、音楽基礎知識のミニテストを行った。1. 「ト音記号、ヘ音記号の名称」、2. 「大譜表における音符の日本音名とイタリア音名」、3. 「五線と加線の名称」、4. 「音符の長さを数字で表す」、5. 「音符と休符の読み方」、6. 「音符の長さ」、7. 「音符や休符の長さの計算」、8. 「4分の4拍子のリズム譜における音符の穴埋めの問題」について、クイズ形式の簡単なテストを20分程度で実施し、回答と解説を行った。問題数は、前回の講座に比較すると約2倍となった。これは、前回のミニテストにおいて比較的早く回答していた生徒が多かったことと、内容が重複している部分も多く含んでいるためである。また数多くの問題数を経験することで理解をより一層深められると考えられたからである。

採点は各自で行い回答用紙は提出不要としたため正答率は不明であるが、担当講師の目視確認では半数以上の生徒がおおよそ正解していた。(資料13)

資料13 ミニテスト「わくわくクイズ」と「どきどきクイズ」



★わくわくクイズ★



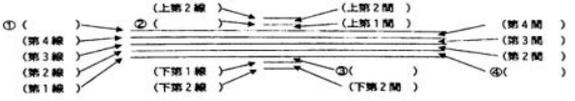
どきどきクイズ

1. 下の記号の名称を書きましょう


 ()


 ()
2. 次の音をそれぞれ()にイタリア音名を、《 》に日本音名を書きましょう


3. 次の図の空いているところに適切な名称を書きましょう


4. 次の音符と休符の長さをリンゴ🍏何個分かを書きましょう


 (. 個分)


 (0.5 個分)


 (. 個分)


 (. 個分)
5. 次の音符と休符の読み方があるものは○を、間違っているものは×を書きましょう


 ワン ()


 タン ()


 タ ()

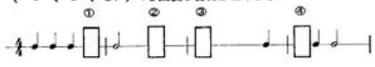

 ターア ()
6. 次の音符を長さの短い順に並び変えて音符を書きましょう


7. 次の音符や休符の長さを計算して、式を完成させましょう

① $\frac{1}{2} + \frac{1}{4} = ()$

② $\frac{1}{4} - \frac{1}{8} - \frac{1}{8} = ()$

③ $() - \frac{1}{4} - \frac{1}{4} = ()$
8. 下の()の中から音符を1つずつ選び、□の中に入れて楽譜を完成させましょう
(♩ , ♪ , ♫) *2回使う音符があります



(6) 入学前教育講座「保育者のための音楽基礎講座①」

2021年12月4日、対象者：新年度生60名、担当：岡崎・二見

本講座は令和4年度(2022年度)入学予定者の約半数を対象とし、残りの約半数の入学予定者については2022年1月29日に同内容の講座を行う予定である。ここでは、次年度の学生全員が保育コースに特化したカリキュラムで学ぶにあたり、「音楽の基礎講座」幼児の「音楽リズム遊び」、「はじめてのピアノ」のための楽典とソルフェージュ(拍子・リズムの解説と演習)を行った。

1) アンケートとプレテスト

初めに、入学予定者が現段階で保有している知識を把握するため、簡単なアンケートとプレテストを行った。これは、入学後に学習予定である「保育者として必要な音楽知識」の内容も含んでいる。このため本講座の時間内においてはプレテストの答え合わせと解説は行わず、2022年1月29日の講座後に回収する回答用紙と合わせて入学予定者全員の回答を添削することとした。(資料14)

2) 五線の知識を正しく覚えて書いてみよう!

項目ごとに説明しながら配布プリントに沿って記入していく方法で実施した。内容は、前回の11月21

たり動いたりして遊ぶ」という入口を忘れてはならない。また、楽器遊びに用いられる音楽は、子どもが楽器で打ってみたいくなる要素を多く含んでいるものを推奨する。子どもは言葉（詩）からイメージを膨らませ、そこから「打つ」という身体的表現に変えていくからである。

2) ウォーミングアップ Ver. 「アイアイ」(相田裕美/作詞、宇野誠一郎/作曲) のリズム練習

参加した高校生もよく知っているスタンダードな子どもの歌「アイアイ」を教材に取り上げ、4分音符と4分休符で合奏のウォーミングアップを行った。楽器は、タンブリン、カスタネット、スズ、の3種類を使用した。3人一組のグループを作り、自分が担当する楽器パートのリズム譜を確認した後、3種類の楽器のリズム打ちをそれぞれが体験し、歌入りの「アイアイ」のCDに合わせて合奏するという取り組みを行った。(参加者は楽器のリズムを打つことに精一杯になるため、同時に歌うことが厳しい。かといって、指導者が歌いながら同時に的確な指示を出すことも厳しいため、ここでは歌入りのCDを活用した)(資料15)

資料15 「アイアイ」のリズム譜参照

事例3 4/4 「アイアイ」

ウォーミングアップ Ver.

相田裕美 作詞 / 宇野誠一郎 作曲

♩=112-120

アイアイ (アイアイ) アイアイ (アイアイ) おき るさ んだよ

アイアイ (アイアイ) アイアイ (アイアイ) みな み の し ま の

アイアイ (アイアイ) アイアイ (アイアイ) し ー ほ の な が い

アイアイ (アイアイ) アイアイ (アイアイ) おき るさ んだよ

Handwritten notes on the score include 'ウォーミングアップ Ver.' and '事例3 4/4 「アイアイ」'. The score is for a warm-up exercise in 4/4 time, with a tempo of 112-120. It features four staves of music. The first staff is the vocal line with lyrics. The second, third, and fourth staves are rhythmic accompaniment for the tambourine (タンブリン), castanets (カスタネット), and shamisen (shamisen), respectively. The lyrics are: 'アイアイ (アイアイ) アイアイ (アイアイ) おき るさ んだよ', 'アイアイ (アイアイ) アイアイ (アイアイ) みな み の し ま の', 'アイアイ (アイアイ) アイアイ (アイアイ) し ー ほ の な が い', and 'アイアイ (アイアイ) アイアイ (アイアイ) おき るさ んだよ'. The score includes handwritten notes 'ウォーミングアップ Ver.' and '事例3 4/4 「アイアイ」'. The tempo is marked as ♩=112-120. The score is for a warm-up exercise in 4/4 time, with a tempo of 112-120. It features four staves of music. The first staff is the vocal line with lyrics. The second, third, and fourth staves are rhythmic accompaniment for the tambourine (タンブリン), castanets (カスタネット), and shamisen (shamisen), respectively. The lyrics are: 'アイアイ (アイアイ) アイアイ (アイアイ) おき るさ んだよ', 'アイアイ (アイアイ) アイアイ (アイアイ) みな み の し ま の', 'アイアイ (アイアイ) アイアイ (アイアイ) し ー ほ の な が い', and 'アイアイ (アイアイ) アイアイ (アイアイ) おき るさ んだよ'.

3) 「さんぽ」(中川李枝子/作詞、久石譲/作曲、橋本祥路/編曲) の楽譜についての説明

この曲には、前奏のタンブリンのパートの2小節目に3連符が出てくるので、3連符とは、4分音符(りんご🍏1個)を3等分した音符であることを説明し、その小節を集中的に練習した。歌に合わせて、3つの楽器のパート練習をし、最後に歌入りの「さんぽ」のCDに合わせて合奏するという取り組みを行った。(資料16)

4) 「あわてんぼうのサンタクロース」(吉岡治/作詞、小林亜聖/作曲・編曲) のリズム譜 (資料17) についての説明

この曲では、歌の歌詞に合わせて、スズ、たいこ、カスタネット、タンブリンの4種類の楽器を使用した。まず、歌詞に合わせて、歌の前半部分の振り付けの練習をし、次に、後半の歌詞に合わせて、(スズ) ♪リンリンリン、(たいこ) ♪ドンドンドン、(カスタネット) ♪チャッチャッチャ、(タンブリン)

ン) トシャランランの箇所の楽器のリズム打ちの練習を行った。

5) ミュージックベルの演奏練習

前奏の10小節間は、クリスマスの雰囲気を演出するために、ミュージックベルで演奏するパートにした。(資料18) このミュージックベルについては、初めてミュージックベルの演奏を体験する高校生が多いことを想定し、事前に学生スタッフにベルの持ち方や演奏方法を指導しておいた。ミュージックベルは、C・F・G・A・bB・↑C・↑Dの7つのベルをそれぞれ2個ずつ2人で演奏できるように準備した。

本実践では、事前に指導し、練習しておいた学生スタッフが演奏のお手本を見せ、高校生に順次参加してもらうことにした。学生スタッフのお手本演奏の後、学生スタッフと高校生が向かい合ってミュージックベルの演奏練習に取り組んだ。

資料16 「さんぼ」のリズム譜参照

資料17 「あわてんぼうのサンタクロース」のリズム譜



最後に、学生スタッフがピアノ伴奏を担当し、「あわてんぼうのサンタクロース」の楽曲全体を通して成果発表を行った。

IV 結果と考察

本研究は、音楽の初心者である受講生が短期大学の2年間という限られた時間の中で、保育現場に欠かせないピアノ演奏技術や音楽基礎知識を、楽しく正しく効率よく習得させるための方法を調査することが目的であった。

本研究で行った7つの講座では、リトミック、リズム遊び、ボディパーカッション、ピアノ演習、楽器遊びの観点からの体験的な実践に加え、音楽知識を基礎から学ぶことにより、音楽教育を受けた経験の有無を問わず、受講者が音楽を楽しみ興味を持つきっかけになったと考えている。

リトミックの観点からは、身体表現を含む様々な形態のカノンを通して、相手の動きや音につられないように集中し、後続パートは先行パートの動きや音を覚えるために懸命に記憶し、皆で一つの曲を表現するという協調性がみられた。

リズム遊びの観点からは、動物の鳴き声を音符に置き換えてリズム化し、お面をつけることによって動物のイメージをしやすくなり、相手を見て楽しみながらリズムを表現する様子が見られた。

ボディパーカッションの観点からは、受講生同士でお互いに励まし合う様子や自ら練習方法を考え出す様子が見られ、コミュニケーション能力、協調性、集中力、責任感を身につける重要性に気づいたと考えられる。また衣装を着けて行うことにより、幼児におけるリズム遊びのイメージも作ることができたと考えている。

ピアノ演習の観点からは、実際のピアノに触れる前段階において実寸大の紙鍵盤を使用し、楽譜の音符と鍵盤の位置関係の理解と鍵盤上の距離をある程度把握することにより、実際のピアノで音を出す際にスムーズに実践ができたと考えられる。また、電子ピアノ内臓のリズムに合わせて演奏することにより楽しみながら練習を重ねる様子が見られたことから、このようなツールを使うことは練習意欲の向上に役立つと考えられた。

楽器遊びの観点からは、受講生同士がお互いのリズムパートをよく聞き合いながら演奏することができ、振り付け・リズム・ミュージックベルの3つの要素が混在する取り組みにおいても、受講生は戸惑うことなく合奏することができた。これは、周知の楽曲を使用したことがその要因の一つであると考えられるが、集中して演奏を行うためには「音楽を楽しむ」ということが重要であると考えられた。

このように、本研究の体験的な実践において、楽しみながら音楽活動を行うことにより、集中力、記憶力、コミュニケーション能力、協調性、責任感、練習意欲の向上が期待できると考えられた。

また、音楽基礎知識の学習の観点からは、イタリア音名と日本音名の関係性の理解や、音符や休符の

長さなどの基本的な知識を理解した様子であった。音符の計算クイズにおいて、できる喜びを実感している様子も伺えた。

これらを通して、さらに学習意欲を高めるためには小さな達成感や成功体験を積み重ねることと、学生の理解力に合わせたカリキュラム作りが重要であると考えられた。

我々指導者としては、学生が自ら意欲的に学習できる環境を整えること、また実践と知識面でのフォローに重点を置くことも忘れてはならない。

V 今後の課題

音楽基礎知識の学習に関しては、個人差はあるものの小中学校の義務教育で学習したはずの内容が身についていない傾向が予想以上に多くみられたことから、まずは音部記号や音符の長さなどを始めとする基礎固めを行い、その上で保育に必要な音楽知識を習得できるよう指導していきたい。

また今後も引き続き研究を重ね、ピアノの練習に悩みや迷いがなくなっていくかを細かく把握しながら、特にピアノ初心者についてのより効果的なレッスン方法の改善、今年度から導入された電子ピアノを使ったグループレッスンの指導の在り方を検討していきたい。

■引用文献

- 1) 幼稚園教育要領解説「文部科学省」平成20年10月施行。

■参考文献

- ・山田俊之著、「楽しいボディパーカッション3リズムで発表会」、音楽の友社、2011年。
- ・山田俊之著、「ザ・ボディパーカッション B級グルメリパーティ」、音楽の友社、2014年。
- ・岡崎裕美、二見美千代、佐久間敦子共著「保育士養成校におけるソルフェージュ教育の必要性—音楽表現とリトミックからの実践」、千葉敬愛短期大学総合子ども学研究所、2021年3月。
- ・板野平監修、神原雅之・野上俊之編著、「ダルクローズ教育法によるリトミックコーナー」、チャイルド本社、2016年2月。

VI 補足資料（ピアノ初心者のための音楽基礎講座及び入学前教育受講者アンケート・音楽基礎知識確認テスト）

本学を希望する高校生の多くがピアノの学習経験がなく初心者であることは、昨年度の「保育士養成校におけるソルフェージュ教育の必要性—音楽表現とリトミックからの実践」（千葉敬愛短期大学総合子ども学研究所、2021年3月）で述べたが、昨年度の高校生対象の音楽基礎講座の実践においても、ピアノの学習経験のない者が半数以上であることや音符や拍子、音楽記号、コード等の基礎的な知識の習得が十分でないことが本学における「器楽」の学習にも大きく影響していることが分かった。

今年度は、同様の講座の参加者や入学前教育の受講者に対し、ピアノ学習の経験の有無の他に、鍵盤楽器の所有の有無や、音楽の基礎的な知識理解の確認テストを行い、入学予定者の「音楽」的素養のレベルチェックを行い、実践研究によってより効果的な指導内容や方法を探ることとした。

資料1 初心者のための音楽基礎講座アンケート集計結果（2021.11.21実施）

1 アンケートについて

（1）調査の目的

- ・入学予定者の鍵盤楽器演奏の経験やレベル、既習の「音楽基礎知識」について確認する。
- ・ピアノ初心者や入学後のピアノの授業への不安をのぞき、効果的な指導・支援を検討する資料とするため

- (2) 調査対象者
ピアノ初心者のための音楽基礎講座（11月21日実施済）27名
- (3) 調査の方法
質問紙（講座の終了時に回答し、回収）
- (4) アンケートの作成・集計 岡崎・二見・佐久間
- (5) 結果の分析 岡崎・二見・佐久間

2 アンケートの集計結果

- (1) 教科「音楽」の授業選択
音楽選択者 15名（56%） その他の教科 12名（44%）
- (2) ピアノ・エレクトーン等鍵盤楽器の学習経験
経験者 9名（33%） 経験なし 18名（67%）*
- (3) 学習歴・時期・最終レベル

1年	2名	3～4歳まで	不明
		6～7歳まで	不明
2年	1名	10～12歳まで	不明
4年	1名	6～10歳まで	バイエル
5年	2名	7～12歳まで	教本なし・好きな曲
		10～15歳まで	ブルグミュラー
8年	1名	4～12歳まで	ブルグミュラー
12年	1名	2～14歳まで	バイエル
14年	1名	4～18歳まで	ブルグミュラー
- (4) 学習歴のない者の、鍵盤楽器で曲を弾く経験・具体的な内容

全くない・ほとんどない	6名
右手だけ	6名
両手で	6名

具体的な内容
「ちょうちょう」「かえるのうた」初心者のためのピアノ、初心者用のピアノのテキスト、ド～ソまでの短い曲・高1の選択授業で弾いた
自分の好きな曲をインターネットで調べて、ユーチューブを見てまねた*
- (5) 音楽基礎知識で既習のものについて

ト音記号の形	22名（81%）	知らない	5名（20%）
イタリア語音名（ドレミ）	26名（96%）	知らない	1名（4%）
日本語 音名（ハニホヘト）	20名（74%）	知らない	7名（26%）
英語音名（CDEFG）	9名（33%）	知らない	18名（67%）
休符の読み方	13名（48%）	知らない	14名（52%）
音符や休符の長さ	20名（74%）	知らない	7名（26%）
拍子について	20名（74%）	知らない	7名（26%）
ピアノを弾く時の姿勢や指の形	18名（67%）	知らない	9名（33%）
指番号	18名（67%）	知らない	9名（33%）
音名と鍵盤の一致	16名（59%）	知らない	11名（41%）

- (6) ピアノ演奏の上達への期待・歌唱などについて
 ピアノを上手に弾けるようになりたい 27名
 どんな曲が弾きたいか (自由筆記)
 子どもの歌・童謡・保育に役立つ曲 13名
 ジブリの曲・ディズニーソング・アニメソング 8名
 「ねこふんじゃった」・「どんぐりころころ」・「さよならほくたちの幼稚園」
 子どもたちと歌いながら楽しく弾ける曲
 子どもが元気よく歌える曲
 卒業ソング
- (7) 歌うことは好きか・どんな歌が好きか
 歌うことが好き 26名 いいえ 1名 (あまり上手じゃないから)
 好きな歌
 K-pop・J-pop・流行曲・明るい歌・リズムカルな曲・合唱曲・スローテンポの曲
 ディズニーソング・楽しい歌・いきものがかりの歌・AAA・
- (8) 歌の上達への期待・どんな曲を歌えるようになりたいか
 歌が上手に歌えるようになりたい 27名
 どんな曲が歌えるようになりたいか
 童謡・手遊び歌・保育園で使う曲・子どもと一緒に歌える曲・子どもが喜ぶ曲 19名
 幅広い曲 2名、明るくテンポの良い曲 2名、アニメソング 2名
 小さい子に少し難しい曲、音域の広い曲 各1名

3 考 察

調査対象者27名のうち17名が10月の講座を受講しており、音楽の基礎知識、ピアノの片手・両手演奏を講座の中で体験した。

(1) ピアノ初心者は約7割 (67%)

質問1・2・3において、音楽選択者は56%だったが、ピアノの習い事経験者は33%と低く、学習レベルもバイエル2名、ブルグミュラー3名、好きな曲1名、不明2名である。

(2) ピアノの学習未経験者 (ピアノ初心者) の独学の課題

質問4において、ピアノの学習歴のない者のうち、「初心者用のテキストを買って」「インターネットで調べて」「ユーチューブを見ながら」という回答もあったが、適切な指導がない場合は読譜力のないまま形だけをまねて演奏するという学習方法を身に付けてしまうことになる。

楽器演奏の基本の読譜力を身につけさせ、実習や採用試験、また現場に出たときに初見の曲や子どもの状況に応じた演奏ができる力を育てることが重要だと考える。

(3) 音楽基礎知識について6割以上が理解していない

質問5については、ト音記号の形やイタリア語音階 (ドレミ) については8割以上が知っていると回答したが、休符については5割にとどまった。

ピアノの演奏の基礎である姿勢や指の形、指番号、音名と鍵盤の一致などの質問では、3割から4割が理解できていない状況である。さらには10月9日の講座の受講者の回答を除くと、理解している率は下がり、ピアノ演奏については7割が初心者という結果であった。

(4) 音楽教育への期待

質問6～8については、保育を目指す高校生であり、そのことが子どもに対する思いとしての曲選び

になっていると思われる。

一方で自分の好きな曲も演奏・歌唱できるようになりたいという期待が記述されており、授業において、学生自身も楽しく感じ取れる曲や歌で参加意欲・学習意欲を高めていくことも有効ではないかと考える。

資料2 入学前教育受講者へアンケート及び音楽基礎知識確認テスト結果（2021.12.4実施）

1 アンケート・音楽基礎知識確認テストについて

(1) 調査の目的

入学予定者の「音楽基礎知識」の有無、レベルの測定
及び入学後の学習環境としての鍵盤楽器の所有状況の調査の為
*「音楽教育」における学生の実態調査と授業・支援の方法を探るため

(2) 調査対象者

今年度実施の入試総合型I期合格・入学予定者65名のうち欠席5名を除く60名

(3) 調査の方法

質問紙（講座のはじめに回答し、回収）

(4) アンケートの作成・集計 岡崎・二見・佐久間

(5) 結果の分析 岡崎・二見・佐久間

2 アンケート集計結果

(1) 教科「音楽」の授業選択の有無

音音楽選択者 37名 その他の科目 23名

(2) 音楽選択者の中で基礎知識（楽典）やソルフェージュの学習

学習経験者 17名 未経験者 20名

(3) 鍵盤楽器の所有 43名 無 17名

(4) 所有する鍵盤楽器

ピアノ 13名 電子ピアノ 26名 卓上キーボード 2名

複数所有 2名（ピアノ・キーボード 1名、ピアノ・電子ピアノ・キーボード 1名）

3 音楽基礎知識確認テスト結果

質問項目		（%）回答者60名に対する割合 少数第3位を四捨五入			
1	「音楽」選択の有無	有 37名 (62%)		無 23名 (38%)	
2	基礎知識（楽典）やソルフェージュの学習	有 17名 (28%)	無 20名 (33%)		
3	鍵盤楽器の所有の有無	有 13名 無4名	有 13名 無 7名	有 18名	無 5名
		有 44名 (73%) 無 16名 (27%)			
4	ピアノ	13名 (22%)			
	電子ピアノ	26名 (43%)			
	卓上キーボード	2名 (3%)			
	その他 複数所有	2名 (3%) ピアノ・キーボード、ピアノ・電子ピアノ・キーボード			

(1) 記号の名前

①ト音記号 ②へ音記号 ③4分音符 ④8分音符 ⑤4分休符

(2) 記号の名前と意味

- ① rit. (だんだん遅く) ② p (弱く) ③ f (強く)
 ④ スタッカート (音と音の間を切って歯切れよく演奏すること) ⑤ # (半音高くする)
 ⑥ b (半音低くする)

(3) 記号の読み方 ① 4分の4拍子 ② スラー

(4) 音階 ハ長調

(5) コード名 英表記・カタカナ

- ① C ドミソ ② Dm レファラ ③ F ファラド ④ G ソシレ

(6) 拍の理解

- ① 4分音符を1拍とした場合 2分音符は(2拍)、16分音符は(0.25拍)
 ② 4分休符を1拍とした場合 2分休符は2拍、8分休符は(0.5拍)

4 アンケート結果の考察

	①ト音記号		②ヘ音記号		③四分音符		④八分音符		⑤四分休符			
音楽選択者	31 (52%)		31 (52%)		29 (48%)		25 (42%)		22 (37%)			
他教科選択	13 (22%)		9 (15%)		9 (15%)		8 (13%)		4 (7%)			
	① rit		② p		③ f		④ スタッカート		⑤ #		⑥ b	
	名称	意味	名称	意味	名称	意味	名称	意味	名称	意味	名称	意味
音楽選択者	12 (20%)	8 (13%)	31 (51%)	26 (43%)	29 (48%)	27 (45%)	25 (42%)	21 (35%)	36 (60%)	23 (38%)	27 (45%)	22 (37%)
他教科選択	8 (13%)	1 (2%)	12 (20%)	10 (17%)	12 (20%)	10 (17%)	4 (7%)	3 (5%)	16 (27%)	7 (12%)	10 (17%)	6 (10%)
	四分の四拍子				スラー				ハ長調			
音楽選択者	16 (27%)				18 (30%)				10 (17%)			
他教科選択	9 (15%)				5 (8%)				2 (3%)			
	C ドミソ		Dm レファラ		F ファラド		G ソシレ					
音楽選択者	11 (18%)		8 (13%)		11 (18%)		8 (13%)					
他教科選択	1 (2%)		1 (2%)		1 (2%)		1 (2%)					
	4分音符が1拍の場合				2分音符は2拍				16分音符は0.25拍			
音楽選択者					26 (43%)				12 (20%)			
他教科選択					13 (22%)				3 (5%)			
	4分休符を一拍とした場合				2分休符は2拍				8分休符は0.5拍			
音楽選択者					13 (22%)				13 (22%)			
他教科選択					6 (10%)				5 (8%)			

(1) 音楽基礎知識を学んでいない生徒が7割強 (72%)

高校在学時に教科音楽を選択した者は約6割 (62%) であり、楽典や読譜の学習を経験した者は、全体では約3割 (28%) の生徒である。つまり入学者の7割強が基礎的な知識を学校では学んでいない状態である。また、学びの内容、修得の状況も確認テスト (後述) でわかるように十分なものではなく、こうした実態に対する支援の在り方は検討しなければならない。

(2) 鍵盤楽器を所有していない (練習環境がない) 者は約3割

鍵盤楽器を所有する者は73%、所有していないものが27%であり、自宅で練習ができる環境にない生徒への手当、支援方法も重要である。また、電子ピアノの所有は約4割で、ピアノは2割であり価格や使い勝手の上から電子ピアノの方がより身近な鍵盤楽器になっていて、自宅での練習との連動の観点か

らも電子ピアノを使った指導に期待する。

5 音楽基礎知識確認テスト結果の考察

(1) ト音記号・ヘ音記号、音符・休符の基本事項は約半数が分からない現状

音楽選択者の正答率が高いのは高校までの教育の中で一通りの学習がされているということだと考えるが、「演奏」の観点から考えるとト音記号やヘ音記号・音符・休符という基本事項でさえも半数以上が分からない現状であることがはっきりした。

(2) rit. p f # b などの演奏法の記号は約60%が分からない現状

比較的正答率が高かったのは#の名称で60%、ついでp50%だが、意味の理解は40%と下がり、ritになると正答率は20%、意味については13%しか答えられない。

(3) 拍子や音階、コードの理解は平均すると18%の正答率

拍子や音階、4分の4拍子でさえ27%、ハ長調は17%、コードに至ってはCが18%、Dm・Fは13%、Gは10%と更に低くなる。

(4) 事前の学習で基礎を習得させることの有効性

音符や休符の長さ(拍)の理解の正答者は、ほとんどがピアノ初心者のための音楽基礎講座の受講者であり、音符や休符の名称の正答者も、講座で学んだことが残っていたものと考えられる。基礎知識の習得という過程を経て、演奏法の習得に向かうことが不可欠だと考える。

6 提言

昨年度、今年度と2年間の岡崎・二見の実践研究は、本学入学生の音楽的素養等の実態把握の上で、より効果的な「音楽教育」の在り方を検討し提言するためのものであった。

昨年度は、他の短大の実践研究を学び、本学の在学生の「器楽」教育への意識や学習の変容について質問紙による調査や聞き取りによる現状把握を行い、本学志願者に対するアンケートなどと併せて、初心者対応の講座の重要性を指摘した。初心者向け講座の開設、学習進度の遅い学生への支援の仕組みができ、一定の効果をえた。

今年度は、音楽基礎講座の受講者へのアンケート・入学前教育受講者に行った音楽基礎知識確認テストにより、本学入学生の音楽的素養や、ピアノの練習環境などについて、実態把握と指導法を検討した。

授業の中で、基礎的な知識や技能を身に付けるために、どのような内容を、どのように指導するかは専門家に委ねられるべきだが、「演奏」についての初心者は7割以上であり、学習経験者も大きくレベルの差があるということが質問紙からもはっきりしている。

グループレッスンが可能な環境ができ、学生が一斉に練習できることや同レベルの学生がグループになれば、全体で同じ指導ができることも、効率的である。特にレベル別学習については、学生からは自分だけができないと苦痛を感じるなどの心理的な負担も軽減されるという副次的な効果もあり、初心者にとっては重要である。

学習内容においても、コードによる簡易伴奏法などを正規授業に取り入れている短大も多く、保育現場で役立つ「音楽力」の一つとしても、採用試験の際に問われる力となっていることから、検討されたい。

保育者に求められる「音楽力」とは何か。子どもの発達・成長の上での「音楽」の捉え方、特に保育者養成校が目指す音楽教育について、初心に立ち返って再構築することも重要である。(佐久間)

幼児を対象とした健康教育に関する絵本の一考察Ⅱ

片づけに関連する絵本の内容分析

齋藤 めぐみ

The Study of Picture Books Related to Health Intended for Children Content Analysis of a Tidying Up Related Picture Books

Megumi SAITO

キーワード：領域「健康」、健康教育、片づけ、絵本の選書、保育者養成

序 論

幼稚園教育要領（2018）に示された保育内容「健康」の内容に“幼稚園における生活の仕方を知り自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する”とある。内容には“片づけ”という言葉は使われていないが、この内容に関して幼稚園教育要領解説（2019）に以下の通り記されている。“幼稚園生活には、所持品の管理をしたり、遊んだ後を片づけたりするなど、皆が一緒に過ごすために身に付けることが必要な生活の仕方がある。これらについて、そのやり方や必要性に気付き、自分たちの生活の場を生活しやすいように整える体験を繰り返しながら、次第に見通しをもって行動できるようになっていくことが大切である。…（略）片づけなどの基本的な生活行動は、まず家庭の中で獲得されるものであり、幼児一人一人の家庭での生活経験を捉えて指導を考えるなど家庭との連携を図ることが大切である。同時に幼稚園でも、例えば、幼児の動線に配慮した手洗場や遊具の収納など幼稚園の生活環境に十分配慮することも必要である。”

このことから、子どもたちの片づけについて、方法や必要性に気づいて自分たちで生活の場を整える体験を繰り返していくこと、家庭との連携、保育現場で環境を整えること等が望まれることがわかる。

片づけについてはこれまでも多くの研究がなされてきた（例えば松田 2006、永瀬ら 2011、平野 2014、元井 2019）。

松田（2006）は、子どもにとってモノや時間や人とどのようにかかわっていくのかを学ぶ機会として、また快適な生活環境の基礎の体験として片づけの意義は重要であると示唆している。平野（2014）は、子どもが片づけを嫌がる理由の一つは、楽しいことの中断である、と述べた上で、年齢が進むにつれ「わたし」の世界が中断するために、いやだと感じた片づけが、友達や保育者とともに生活する楽しさを感じられる「わたしたち」世界へ誘うものへと次第に変容していくことを示している。子どもたちは片づけを通して成長していくことがわかり、保育の中で大事な活動である。永瀬ら（2011）は、遊びから片づけに移行する時に子どもが満足して遊びを終えられること、片づけることに楽しみを見出せていることが必要であることを明らかにした。

相楽（2015）は、健康教育の方法のひとつとして、絵本や紙芝居などの教材を通して子どもにわかりやすく伝えることの有用性を示唆している。絵本や紙芝居などは、子どもたちにとり、受け入れやすい

教材である。そのため、これらを用いる健康教育が片づけに楽しみを見出すことの一助になる可能性がある。

そこで、本研究では、片づけに楽しみを見出せる方法の一つとして絵本を活用した健康教育の可能性を検討する。

方 法

1. 分析対象の絵本

まず千葉敬愛短期大学メディアセンター蔵書検索、および絵本、児童書を紹介する日本で最大のウェブサイト「絵本ナビ」にて“生活の絵本”のテーマの中の毎日の生活、生活の中での項目から“片づけ、そうじ”の本”をキーワードとして絵本を検索した。次に絵本ナビに記されている絵本の概要を参考にして、片づけの援助とは関係のない内容である絵本を除外した。その中から千葉敬愛短期大学のメディアセンターに所蔵の絵本、および2021年12月までに入手できた絵本と合わせて20冊を本研究の分析対象とした。

2. 分析方法

有馬（2021）の内容分析法を参考として、絵本のテキスト部分から共通の内容と言葉を抽出してコード化して、同類項をまとめ、キーワードを決定し、絵本別にその有無を調査した。

結 果

1. 対象の絵本とその内容

分析対象は20冊であったが、片づけの援助に関連しないとみられる絵本が存在したため、本研究の対象から除外し15冊を対象とした。対象とした絵本15冊とその内容を表1に示した。

表1 対象絵本の内容

ID	書名	内容
1	おさらを あらわなかった おじさん	一人暮らしのおじさんは、料理をしてもお皿を洗わない日々。お皿がなくなると灰皿や石けん入れまで使い、それでもそれらを洗わない。そのうち家にはいれないくらい汚れたお皿や食器がいっぱいになってしまう。あるとき、雨が降ってきた時、おじさんは、全ての食器をトラックに入れて雨の中で食器を荒い、全てを戸棚にしまう。おじさんはこれに懲りてそれから毎日食器を洗うことにした。もう何も探すこともなく床もきれいでおじさんは幸せになる。
2	ノンタン ぱっぱらばなし	部屋中かみくずだらけのノンタンの家。うさぎさんちに行ってもくまさんちに行ってもちらかしているノンタン。みんなに嫌がられても平気だったが紙くずがノンタンについてきて、耐えきれなくなり、やっと自分の部屋を片づけはじめるノンタン。きれいになるとすっきりきもちいいと感じる。
3	パオちゃんの みんなでおかたづけ	ぞうのパオちゃんが家で友だちと積み木やたくさんのお家のモノで高い家を作って遊ぶ。パオちゃんのパオちゃんがホットケーキを作って蜂蜜を使いたいが見つからない。そのため、高い家を壊して片づけをし、蜂蜜を見つける。さいごはホットケーキを皆で食べる。
4	メイシーちゃん のおかたづけ	遊びにやってきたともだちのワニのチャーリーと一緒に家を掃除するネズミのメイシーちゃん。終わったら2人でケーキを食べてお茶の時間をもつ。そうじも誰かと一緒にやると楽しくきれになると嬉しいということが伝わる。タイトルはおかたづけであるが中身はそうじであった。

5	えらいねくうびい	クマのくうびいちゃんがおもちゃの電車を探すところから始まる。散らかしすぎてから、とママに言われ片づけ始め電車は見つかる。しかし喜んで飛び上がると出しっぱなしのスーパーボールで滑ってしまう。そこで今度は本格的に片づけを始め一つの箱に全てを片づける。
6	トムとレアのおかたづけ	オオカミのトムとネズミのレアが家の中の道具を確認しながら片づけを行うしかけ絵本。各部屋にある道具がたくさん描かれている。オリジナルは2005年の出版であるが、道具の紹介に古い型のコンピューターやテレビ、ビデオカセット等が描かれている。またアメリカの家の道具である。アメリカの家や道具をのぞき見ることができる。
7	おかたづけしてね、ペネロペ	片づけしなさい、とママに言われるネコのペネロペ。片づけしたくないペネロペは、全部をベッドの下に隠す。しかし、みつかってしまいママとパパとで一緒に片づけ始める。
8	みんなおかえり	モノが主体。ボール、クレヨン、つみき、本、が次々に家に帰っていく。クマはママの膝へ。
9	ななちゃんのおかたづけ	おやつにするため、片づけ始めるななちゃん。はじめおもちゃ全部をひとつの箱に入れて片づける。するとそれぞれのおもちゃが、自分たちの帰る場所はどこではない、と逃げ出す。ななちゃんはおもちゃたちと相談して、仲間同士でわけてそれぞれの帰る家におもちゃを片づける。片づけのコツは、要・不要を分ける、仲間に分ける、場所を決める、というコツが描かれている。
10	かたづけしないとどうなるの？	片づけないと、ころんだりモノでけがしたりするので片づけることにしたメトロンせいじん。きれいになると研究もはかどり楽しく過ごせることがわかり、それからはいつも片づけるようになる。
11	かたづけやさーい	きゃべつ、とうもろこし、ピーマン、かぼちゃが遊んでいたが、片づけをするよう言われる（誰からかわからない）。みんな初め嫌がるが、キャベツが楽しそうに片づけ始めると他の野菜も片づけをはじめ、最後はきれいになって気持ちいいということで終わる。片づけが楽しそう、と思えることやモノを種別に分けたりもとの場所に戻す、ということが片づけになっている。
12	おもちゃのかたづけできるかな	もうすぐごはんなので、ひろきくんは、おもちゃをバラバラに片づけるがまほうつかいに、同じ家族別に片づけることを教えてもらう。それから同じ種類別にモノをもとにもどし、部屋はすっきりきれいになる。自分たちの家に戻れ片づけてもらったおもちゃたちも嬉しそう。
13	おそうじだいさくせん	おばあちゃんがうちに来る、をきっかけにほしの一家3人で掃除開始。仲間で片づけ、捨てたくないものはたからばこをつくって入れておく方法で片づける。
14	キキとジャックスなかよしがずっとつづくかたづけのまほう	リスのキキとふくろうのジャックスは仲良し。キキのうちはモノを片づけないので遊べずジャックスのうちで遊ぶ。あるとき、海に誘われるキキだが水着が見つからない。ジャックスが片づけを提案。同じようなものを集める、その後ときめくものだけ残すといいと教えてくれる。やがてキキの部屋はきれいになり、きれいになると2人は遊べるようになる。
15	おかたづけめっちゃすっきりきもちいい	うきくん、わくくんは遊びに夢中で部屋がごちゃごちゃ。そこで片づけを始める。3分という時間を決めて片づけをする、リズムをつけて片づける、仲間で分けて、ごっこあそびで、競争で片づけをする。楽しい片づけ方法で片づけると片づけも楽しくすっきり気持ちいい気分になる。

2. 対象絵本のプロフィール

対象とした絵本15冊のプロフィールを表2に示した。

表2 対象絵本のプロフィール

ID	書名	作	監修 推薦	出版社	出版年	判型・頁数
1	おさらを あらわなかった おじさん	作：フィリス・クラジラフスキー 絵：バーバラ・クーニー 訳：光吉 夏弥(翻訳)		岩波の 子どもの本	1978年	21×16.5cm 30頁
2	ノントン ぱっぱらばなし	作・絵：キヨノ サチコ		偕成社	1986年	18×15.5cm 32頁
3	パオちゃんの みんなでおかたづけ	作・絵：なかがわ みちこ		PHP研究所	1999年	18.5×19cm 26頁
4	メイシーちゃんの おかたづけ	作：ルーシー・カズンズ 訳：なぎ ともこ		偕成社	2003年	21×21.5cm 24頁
5	えらいねくうぴい	作・絵：なかや みわ		ミキハウス	2006年	25×25cm 20頁
6	トムとレアの おかたづけ	作：アーメルポイ 絵：うみ ひかる		西村書店	2006年	30×28.5cm 20頁
7	おかたづけしてね、 ペネロペ	作：アン・グッドマン 絵：ゲオルグ・ハレンスレーベン 訳：ひがし かずこ		岩崎書店	2007年	14×14cm 20頁
8	みんなおかえり	作・絵：飯森 ミホ		金の星社	2010年	18.5×18.5cm 24頁
9	ななちゃんの おかたづけ	作・絵：つがね ちかこ	○	赤ちゃんと ママ社	2014年	24.5×22cm 28頁
10	かたづけしないと どうなるの？	作：ひらいたろう 絵：ヲバラ トモコ		あいうえお館	2015年	18×17.5cm 30頁
11	かたづけやさーいい	作・絵：わたなべ あや		金の星社	2010年	18.5×18.5cm 24頁
12	おもちゃの かたづけできるかな	作・絵：深見春夫	○	岩崎書店	2017年	25.5×22cm 32頁
13	おそうじ だいさくせん	作：もとした いづみ 絵：つじむら あゆこ	○	ポプラ社	2018年	25×25cm 32頁
14	キキとジャックス なかよしがずっと つづくかたづけの まほう	作：こんどう まりえ 絵：サリナ・ユーン	○	文響社	2019年	21×21cm 32頁
15	おかたづけ めっちゃすっきり きもちいい	作・絵：うえだ しげこ	○	パイインター ナショナル	2020年	26×22.5cm 34頁

(1) 出版年

15冊中、3冊は2000年以前、それ以外は2000年以降に出版された絵本であり、近年出版された絵本が多かった。

(2) 出版社

特に特定の出版社から出版が多いということはない。あいうえお館は、怪獣やウルトラマンなどのキャラクターの出版の多い出版社である。

(3) 作者・監修者

「キキとジャックスなかよしがずっとつづくかたづけのまほう」の作者は、片づけコンサルタントのこんどうまりえであった。「ななちゃんのおかたづけ」はライフオーガナイザー鈴木尚子、「おもちゃのかたづけできるかな」は整理収納アドバイザー梶ヶ谷陽子、「おそうじだいさくせん」は環境マイスター新津春子(原案)、「おかたづけ めっちゃすっきりきもちいい」は整理収納アドバイザーEmiと、それぞれ片づけの専門家が監修や原案作成として関わっていた。

3. 詳細

設定、テーマ、主人公、および片づけに関して含まれる内容を抽出し、それらについて調査し表3に示した。片づけに関して含まれる内容としては、片づけを始める理由、片づけのコツ、片づけた結果の感情や状態、次の行動が含まれていた。

(1) 設定

幼稚園や保育所等の保育施設を設定した絵本はなく、全ての絵本は家を設定した片づけ場面が描かれていた。家全体と自分の部屋だけの比率は8冊対7冊でほぼ半々であった。

(2) 主人公

片づける側の人間の子ども、動物の子ども、野菜、片づけられる側のおもちゃが主人公として設定されていた。動物が主人公のものが全体の半分以上8冊、と多かった。人間の子どもが主人公であるものは4冊であり、人間以外の主人公が多かった。

(3) メッセージ

片づけが終わるときれいになって気持ちいい、を描いているものは11冊、きれいになった結果として、遊べる、物を探さなくて済む、片づけられた物の立場から、もとに戻れて嬉しいという片づけしてよかったというプラスの内容を描いているものが多かった。片づけの専門家が作者、監修者である絵本は、それぞれのもつ片づけのコツが紹介されていた。

(4) 片づけの始まりの理由

片づけの始まりの理由は、誰か(主に母親)から言われたから、次の行動(ごはん、おやつ)に移るから、物がなくなったから、散らかりすぎて物に滑って転倒したから、散らかりすぎて友達と遊べないからと、ほぼ全部の絵本においてその理由が明確に示されていた。「トムとレアのおかたづけ」は土曜日だからと特定の日を片づけやそうじの日としてそれを理由に片づけを始めていた。また、「みんなおかえり」「ななちゃんのおかたづけ」「おもちゃのかたづけできるかな」は、片づけられるおもちゃや本の立場から描かれており、家に帰りたいから、ということが片づけの始まりの理由であった。

(5) 片づけのコツ

片づけ方のコツと実践方法のアイデアが描かれているものが多かった。片づけ専門家が関わっていない絵本でも、片づけ方は描かれていた。

内容としては、ものを種類別に分ける、と、元の場所に戻す、という方法であった。種類別に分けるというのが主流であった。また、元の場所に戻すという方法は、片づけをもどす行為であると捉えている描き方である。

表3 対象絵本の詳細

ID	書名	設定	メッセージ	主人公	片づけを始める理由
1	おさらを あらわなかった おじさん	家	きれいになるとモノが すぐにみつかる	おじさん	使える皿がなくなって しまったから
2	ノントン ぱっぱらばなし	家	きれいになるときもち いい	ノントン(猫)	ごみくず、かみくずに うまってしまったから
3	パオちゃんの みんなでおかたづけ	部屋	片づければ物が見つかる	パオちゃん(像)	ホットケーキのための はちみつを探すため
4	メイシーちゃん のおかたづけ	家	誰かと一緒に片づける と楽しい！ きれいになると 気持ちいい	メイシーちゃん (ネズミ)	特になし
5	えらいねくうびい	部屋	片づけができたことを 褒められる	くうびい(クマ)	電車なくなったり、ころ んだりしたから
6	トムとレアの おかたづけ	家	たくさんの道具の紹介 と片づけ	トム(狼)と レア(ネズミ)	土曜日は片づけの日だ から
7	おかたづけしてね、 ペネロペ	部屋	片づけを通してのペネ ロペと両親のかかわり	ペネロペ(猫)	ママに言われたから
8	みんなおかえり	部屋	片づけはモノが家に帰 ること	片づけられる物	次の行動に移るため (おやつ)
9	ななちゃん のおかたづけ	部屋	分けて場所を決めて片 づける	ななちゃん(女兒)	次の行動に移るため (おやつ)
10	かたづけしないと どうなるの？	家	かたづけするときもち いい	メトロン星人と ウルトラセブン	転んだり滑ったりした から
11	かたづけやさーい	部屋	きれいになるときもち いい、種類別にわかる、 かたづけは楽しい	野菜たち	誰かから言われたから
12	おもちゃのかたづけ できるかな	部屋	片づけはもとにもどす こと。家に帰れてモノ たちも嬉しい。	片づけられる物	次の行動に移るため (ごはん)
13	おそうじ だいさくせん	家	片づけは方法がわかれば おもしろい。きれいになると 気持ちいい！ 物も探さなくていい。	星野さん一家	誰かが来るから (おばあちゃん)
14	キキとジャックス なかよしがずっと つづくかたづけの まほう	家	きれいになると気持ち いい！ ときめくかど うかで残すかどうかを 決める片づけのコツ	キキ(リス)と ジャックス(ふくろう)	水着が見つからず、ジ ャックと遊べなかった から
15	おかたづけ めっちゃすっきり きもちいい	家	片づけには楽しい方法 がある。きれいになると 気持ちいい！ 物も 探さなくていい。	うきくん(男児) わくちゃん(女兒)	いつも部屋がぐちゃぐ ちゃだから

分ける	戻す	場所決め	時間制限	その他	気持ちいい	その他感情	片づけ後の状態・次の行動	健康教育
	○				○		使える皿がなくなってしまったから	△
					○	楽しい	きれいになる	
	○	○			○		はちみつがみつかり、おやつが食べられる	
					○		きれいになる。おやつが食べられる	
×					△		一つの箱に片づけられた	○
	○						おでかけができる	
							片づけ途中で終わる	
	○					モノが嬉しい	あるべき場所に収まる、おやつを食べる	○
○		○			○	モノが嬉しい	おもちゃが嬉しい、おやつを食べる	○
○	○				○		きれいになって気持ちいいし研究もはかどる	
○	○	○			○	楽しい	皆で片づければ楽しいと実感する	○
○	○	○					おもちゃが嬉しい ご飯を食べる	○
○		○	○3分	たから箱を作る、一歩下がって見る	○	○	何かを探さないでよくなるを実感	○
○	○			ときめきで要不要を分ける、たたみ方、しまい方	○	○	友だちとあそべるようになる	○
○			○3分	リズムをつける、ごっこ遊び、競争	○		きれいになる	○

片づけコンサルタント等の専門家が作成していたり監修しているものは、独自の片づけ方のコツが紹介されていた。「ななちゃんのおかたづけ」では仲間同士で分けてそれぞれの帰る家におもちゃを片づける。片づけのコツは、要・不要を分ける、仲間に分ける、場所を決める。「おそうじだいさくせん」では、なかまでかたづけ、捨てたくないものは、宝箱を作って入れておく方法で片づける。「キキとジャックス なかよしがずっとつづくかたづけのまほう」では、同じようなものを集める、その後ときめくものだけ残す、立てて洋服をしまう、そのための畳み方が紹介されていた。「おかたづけ めっちゃすっきりきもちいい」では、3分という時間を決めて片づけをする、リズムをつけて片づける、仲間に分ける、ごっこ遊びをしながら、競争をしながら片づけをするとコツが描かれ、楽しい片づけ方法で片づけると片づけも楽しくすっきり気持ちいい気分になる、ということが紹介されていた。

(6) 片づけの結果

すっきり気持ちいい、楽しい、片づけられた物の立場から嬉しいと感じる、次の行動に移れるなどであった。すっきり気持ちよくなるというのが11冊、と多かった。また、片づけたからもう探し物はしなくてもよい、ごはんやおやつが食べられる、今後はいつもきれいにするという内容が含まれていた。

4. 絵

絵はシンプル、漫画的なものが多かった。古典的で絵だけでも理解できるような物語絵本の絵とは質は異なった。

5. 健康教育の教材としての利用可能性

片づけをする理由、片づけのコツなどが明確に描かれているものを○とした。明確ではないが、そのことを読み取ることができるものは△、明確に表されていないものは無印とした。「えらいねくうびい」は、他の絵本と異なり、仲間に分けるという片づけ方ではなく、一つの箱に全てを入れて片づけるという内容であった。低年齢の子どもにはまず、一つの箱に片づけるということから始めてもよいのではないかと考え、○とした。

考 察

本研究は、片づけに楽しみを見出せる方法の一つとして絵本を活用した健康教育の可能性を検討することを目的とした。

本研究の対象である片づけをテーマとした絵本には、片づけを始める理由、片づけ方のコツ、片づけた後の状況や感情が描かれていることがわかった。

自ら片づけを始めよう、と思うきっかけとなるのは、汚くてモノが見つからない、モノにつまづき転倒するなどであった。

片づけ方のコツについては、同じモノを分類する、片づける場所を決める、元に戻すが描かれているものが多かった。片づけの専門家が書いていたり監修している絵本には、ときめくものを残す、3分間で片づけてみる、捨てたくないモノを入れる箱を作るなどが紹介されていた。

片づけた後の状況や感情としては“すっきりして気持ちよい”ということが示されているものが多かった。片づける人間や動物からでなく、片づけられるおもちゃからの感情として“もとに戻れて嬉しい”というものもあった。片づけ後に出かける、遊ぶ、ごはんを食べる、おやつを食べるといった次の行動が示されているものもあった。

田中(2007)は、実際の保育の中で「片づけてお弁当にしよう」と次の行動も一緒に話すようにしていると述べている。子どもたちには、ただ片づけをするよう伝えるのではなく片づけをすることによって次の活動が待っているということを知らせることに意味がある。それにより、子どもたちが、見通しをもって集団生活を送れるようになっていくと考えられる。

片づけ関連の絵本を子どもたちに読み聞かせることで、片づけると気持ちいい、不自由がなくなる、逆に片づけないと使いたいものも使えない、けがをするかもしれない、ということが理解できるようになっていく可能性がある。

ただし、片づけの方法までを子どもたちが学び絵本に描かれた内容を参考に片づけの実践をするとは考えられない。そのため、具体的な片づけの方法については絵本を参考にして保育者が中心となって考えることが望まれる。

また、本研究で対象とした片づけの絵本には、幼稚園や保育所といった集団生活を設定した片づけ場面のストーリーは存在しなかった。松田（2006）が示すように集団生活の中では必ずしも自分が使ったものだけを片づけるのではなく、他の人が使ったものを片づけなければならない時もある。そのような時の子どもの気持ちの葛藤などを表現した絵本が出版されると、集団の子どもたちの生活に沿った健康教育につながるのではないかと考えられる。

さて、浜谷（2015）は、子どもの活動について次のように述べている。“子どもは、遊ぶことも、食事をすることも、お集まりで先生の話聞くことも、絵を描くことも、どれひとつとっても、それらをこなしたり、処理しては、豊かに発達することはできない。それぞれの活動場面で、ワクワクしたり、熱中したり、友だちと一緒に格闘したり、密度の濃い時間を過ごすこと、言い換えれば、たっぷり味わうことで、豊かな発達は実現する。”片づけに関しても、ただこなしたり処理するだけの活動にとらえず、ワクワクしたり熱中したり友達と一緒に格闘したりしながらできる活動にできるよう保育者は考える必要がある。そういった意味で、やり方がわかれば片づけは楽しい、友達とやれば楽しい等が描かれている絵本を教材として、楽しく片づけを実践できる方法を保育者は考えることができる。また、必ずしも保育者だけが考えるのではなく、子どもたちと一緒に楽しい片づけ方法、例えば玩具や道具の“帰る家”を作る等を考えて片づけも遊びの一環として実践してみてもよいと思われる。

以上、片づけの絵本は様々な内容が含まれており、片づけの理由や片づけた後の気持ちよさ、を理解するための健康教育として有用性はあると考えられる。ただし、保育者は、物語絵本のように読み聞かせをして子どもたちの気持ちを大事にする、という読み方でなく、絵本を導入として子どもと楽しく片づけができる方法を考え、実践していくための教材としての利用をした方がよいと考える。今後、絵本をもとにして保育の中での楽しい片づけの実践を保育現場で行われることを提案したい。また集団生活での片づけについて、子どもの気持ち等が描かれた生活絵本であっても“良質の絵”を使った絵本が出版されることが望まれる。

■引用文献

- ・有馬明恵（2021）「内容分析の方法」株式会社ナカニシヤ出版 京都市、2021
- ・清水将之・相樂真樹子編著（2015）〈ねらい〉と〈内容〉から学ぶ保育内容・領域 健康 149-53 わかば社、東京都板橋区
- ・田中奈津（2007）片づけから気づくこと（〈特集〉生活を保育へ（Vol. 3）：片づけるということ）幼児の教育 106（10）、14-19
- ・永瀬祐美子・倉持清美（2011）集団保育における遊びと生活習慣行動の関連—3歳児クラスの片付け場面から— 保育学研究49、73-83
- ・浜谷直人、江藤咲愛（2015）保育における場面の切り替えと片づけの構造 人文学報（501）、53-64
- ・平野麻衣子（2014）片付け場面における子どもの育ちの過程—両義性に着目して— 保育学研究 52巻1号
- ・松田純子（2006）子どもの生活と保育—「かたづけ」に関する一考察— 実践女子大学生生活科学部紀要. 43, 61-71
- ・元井沙織、小野寺敦子（2019）日本における片づけに関する心理学的研究の展望 目白大学心理学研究（15）、53-64
- ・文部科学省「幼稚園教育要領解説」（2019）、145-166、2019フレーベル館 東京都文京区

絵本の製作と幼児教育とプレゼンテーション

高大連携「総合的な探究の時間」の授業研究

久保木 健夫

“The Making of a Picture Book”, “Education of Early Childhood and Care”,
and “The Presentation”

A Lesson Study of “Period for Inquiry-Based Cross-Disciplinary Study”
(The Combination of High School and College)

Takeo KUBOKI

キーワード：幼児教育・保育、絵本、領域表現（造形）、総合的な探究の時間、高大連携、美術教育

1 はじめに——本論の目的

本研究は、千葉敬愛短期大学と千葉県の公立高等学校との高大連携における授業研究である。千葉県立浦安高等学校の授業「総合的な探究の時間」（高校1年生対象）に、2019（令和元）年度～2021（令和3）年度の3年間、筆者は授業者として参加させていただいている。受講生徒が「絵本の製作を通じて幼児教育について考える」ことを目的とした授業である。「総合的な探究の時間」あるいは「総合的な学習の時間」では、絵本の作品製作のような実技を伴う学習活動は、従来はあまり導入されてこなかったと感じている。幼児教育・保育に限らず、美術教育においても、絵本製作の授業や実践は数多く行われているが、「作品製作（実技）とレポート作成とプレゼンテーション（発表）」を一体的に行う授業の先行事例は、これまであまり見つからない。そこで本論では、この3つを一体的に取り扱う「総合的な探究の時間」の授業を実践・考察し、現時点での成果と課題について検証する。

絵本や造形・美術に留まらず、色や形、お話やイメージ等に興味や関心を示す生徒は多い。こうした生徒の興味や関心、感性を健全に伸ばし、学校教育において求められる資質や能力を育むことが大切だと考えている。こうした造形的な要素を手がかりにして、生徒が幼児教育や保育を含め、学校や社会に興味や関心を広げ、自信や意欲を持って学習活動や諸活動に取り組むことが可能となる教育・研究活動の充実と蓄積を図ることが目的である。

2 本論の先行研究

（1）千葉県立浦安高等学校の「プロジェクト・スタディ・探究ゼミ」と高大連携

千葉県立浦安高等学校の「総合的な探究の時間」は、2018（平成30）年度に始まった。浦安高校は、「プロジェクト・スタディ・探究ゼミ」として、例年、約10校の千葉県内の専門学校、短大、大学、専門機関、地域関係者、等から講師を招き、高校1年生を対象にした「総合的な探究の時間」の授業を実施している。2018（平成30）年度は、千葉敬愛短期大学からは村瀬瑠美が講師（授業者）として授業を担当している。浦安高校の先生方の話によると、高校卒業後の生徒の進路選択の目標として、大学等の進

学を一つの選択肢として、入学時の1年生の時から生徒に意識させていきたい、ということだった。実際、生徒は進路や進学等の話になると、表情が引き締まり、意欲的に学習に取り組む姿が見られるようである。進路選択は、高校生にとっては大きな問題だと考えられるが、「探究ゼミ」や高大連携は、こうした高校生の学習意欲の喚起や、学習環境づくりにも貢献できるのかもしれない。なお、最近の千葉敬愛短期大学の高大連携事業は、千葉敬愛短期大学総合子ども学研究所『年報²⁾』に掲載されている。

(2) 先行研究

本論で実施した「絵本の製作と幼児教育」の授業研究は、高校の「総合的な探究の時間」であることから、『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編²⁾』に基づいて基本的な授業計画を作成し、考察した。授業実践では、千葉県総合教育センターの『令和2年度「総合的な探究の時間」の進め方ガイドブック³⁾』の「理論編」と「実践編・暫定版」を参考にした。また、千葉県立長生高等学校の『総合学習テキスト 長高メソッド2020⁴⁾』(「Ⅰ 学習法の科学」「Ⅱ 社会実践の科学」「Ⅲ 研究法の科学」)も参考にしている。

「探究ゼミ」では、「幼児教育学ゼミ」として授業を担当することを要請された。そのため、本授業(本論)では、「幼児教育学」の視点から「絵本の製作を通じて幼児教育や子どもについて考える」という「総合的な探究の時間」の授業担当者の立場から授業や考察を行っている。

「幼児教育学ゼミ」の授業は「絵本の製作と幼児教育」である。これまで先行事例の少ない「作品製作(実技)・レポート作成・プレゼンテーション(発表)」を一体的に取り扱う授業を計画した。前述の通り、「絵本製作」の授業は、学校教育や保育者・教員養成校では、これまでも数多くの実践や研究が行われている。例えば、千葉敬愛短期大学では、色部和子が「図画工作(初等教育コース)」の授業で「絵本製作」の授業を採り入れている⁵⁾。また、絵本学や美術教育学研究の文献では、和田直人／編『手作り絵本SMILE』があげられる⁶⁾。

今回計画した授業「絵本の製作と幼児教育」の着想は、知覚心理学者・中沢仁による『調べたことを発表しよう⁷⁾』(全5巻)から得ている。この中沢の研究を本授業の具体的なモデルとした。本書は絵本のような装丁で親しみやすく、主に小学校中学年～中学生向きとされている。光村図書の国語教科書にも採り上げられており、教材としても活用可能である。小・中学生が対象となっているが、調べ学習や総合的な学習の時間において、多様な作品や成果物を製作・作成し、その過程を学習過程と捉え、発表(プレゼンテーション)する、という一連の体験的な学習が、総合的な学習として紹介されている。本論で実施した授業は、この本書の授業のあり方を参考にした。しかし、実施した授業は当然ながら、高校1年生を対象にしており、幼児教育学の視点から、授業を構想している。

3 探究ゼミ・幼児教育学「絵本の製作と幼児教育」

「探究ゼミ」は、ゼミごとに、授業者(1名～数名)と、浦安高校のゼミ担当教員(1名)が、授業担当者となり、授業が実施されている。2019年度の授業者は、千葉敬愛短期大学から久保木(9回担当)、佐久間敦子(1回担当)、吉村真理子(学内等での支援)である⁸⁾。また、浦安高校からも大川信子教諭(1回)が佐久間と共に授業を担当した。大川には毎回の授業で、浦安高校図書室の絵本の貸出等のご支援も賜った。ゼミ担当教員は生芝美耶教諭、受講生徒数は計37名(男子5名、女子32名)である。2020年度の「探究ゼミ」は、新型コロナウイルスの世界的流行とその感染予防対策のため、当初の実施計画が変更され、1日だけ実施する「1日探究ゼミ」として浦安高校の図書室で開催された。授業者は久保木、ゼミ担当教員は松園ひかり教諭である。2021年度は、引き続き感染予防対策を講じながら、年間を通じて授業が実施された。授業者は久保木⁹⁾、ゼミ担当教員は成嶋夏実教諭、受講生徒数は計16名(女子16名)である。なお、こうした経緯から、本論では、主に2021年度の授業を軸にして、2019年度の授業実践および2020年度の授業実践の内容を、必要に応じて織り交ぜながら考察することとする。

(1) 授業の概要 (シラバス)

「探究ゼミ」の基本的な授業の構成は、浦安高校より提示された。本シラバスは、その書式に基づいて、受講生徒（高校1年生）を対象に計画・作成したものである。夏季休業、冬季休業、レポート等の提出期限、ゼミ内プレゼンテーション、学年プレゼンテーションは、全ゼミ共通の日程として指定されている。本論では2021年度のシラバスを掲載する。2019年度も基本的な授業計画は同様である。

表1 「探究ゼミ」幼児教育学ゼミ「絵本の製作と幼児教育」シラバス2021(令和3)年度

講座分野名	幼児教育学		
講座名	絵本の製作と幼児教育		
ゼミの主なテーマ	絵本の製作を通じて、子どもの発達や幼児教育の基本について考えます。身の回りの生活環境に関心に向けて絵本を製作します。		
どのようなことを探究できるか	子どもに読み聞かせたい絵本について、相互に協力しながら学びあいます。作品製作(実技)の過程から浮かび上がる諸問題を、幼児教育の視点から考え、自分たちなりの結論を導き出します。		
テーマの例	「身の回りの生活環境」(例) スポーツ、部活動、料理、食物、趣味、ファンタジー、音楽、生物、季節、通学路、地域、家族、等。		
講師から生徒へ	幼児教育、保育、絵本、子ども、表現、造形、製作、発表、等に関心を持ってそのような方を対象とします。実技の作品製作を伴います。作品の完成に留まらず、気づいたことや考えたことを受講生徒が皆でまとめ、発表につなげます。		
講座展開計画			
回		内容	場所・その他
1	5/13(木)	全ゼミワークショップガイダンス	体育館(20分4回転)
2	6/24(木)	概要説明(グループ分け、テーマの設定、「問い」創り、等)	美術室
3	7/ 1(木)	グループ学習(製作プランの作成等)	美術室
夏季休業		資料調査と体験学習(製作プランの作成等)	千葉敬愛短期大学「えほんのもり」
4	9/16(木)	グループ学習(作品製作等)	美術室
5	10/14(木)	グループ学習(作品製作等)	美術室
6	11/ 4(木)	グループ学習(作品製作等)	美術室
7	11/18(木)	検討会(プレゼンテーション資料とレポートの作成)	美術室
8	12/ 2(木)	レポート作成、及び提出/プレゼンテーション資料作成	美術室
	12/23(木)	プレゼンテーション資料提出	
冬季休業			
9	1/13(木)	ゼミ内プレゼンテーション	
10	1/27(木)	学年プレゼンテーション	体育館
講座外活動計画			
冬季休業		内容	場所
夏休み中		資料調査と体験学習(製作プランの作成)	千葉敬愛短期大学「えほんのもり」

2021年度の授業は、グループ学習の形で、新型コロナウイルスの感染予防対策を講じながら実施した。なお、同じく感染予防対策の理由から、第4回目の授業は休講、第10回目の学年プレゼンテーションは筆者が欠席、夏季休業中の講座外活動計画は中止となった。

2019年度の授業は、個に応じた学習活動の形で実施した。グループによる活動を主としたが、各自(1名)が、絵本とレポートをそれぞれ一つずつ製作・作成した。

学習評価については、浦安高校の定める評価による。幼児教育学ゼミでは、主に絵本作品やレポート、発表資料、発表、活動の様子等から評価することになる。2021年度は、浦安高校から途中評価の作成・実施も求められた。幼児教育学ゼミでは、次のような評価の観点を考え、授業中にその要点を生徒に周知した。

表2 幼児教育学ゼミの評価の観点

A	B	C
絵本と幼児教育に関するテーマや課題を、身の回りの生活環境に着目しながら設定し、創意・工夫しながら絵本作品を丁寧に完成させ、絵本の製作や読み聞かせの体験活動を通して自分たちなりの結論を導き出し、自分たちのよさを発揮して、意欲的に小レポートにまとめ、発表を行うことができる。	絵本と幼児教育に関するテーマや課題を、身の回りの生活環境に着目しながら設定し、創意・工夫しながら絵本作品を丁寧に完成させ、絵本の製作や読み聞かせの体験活動を通して自分たちなりの結論を導き出し、小レポートにまとめ、発表を行うことができる。	絵本と幼児教育に関するテーマや課題を、身の回りの生活環境に着目しながら設定し、絵本の製作や読み聞かせの体験活動を通して、自分たちなりの結論を導きだし、小レポートにまとめ、発表を行うことができる。

この他、毎回の授業で必要な資料は、授業者が準備した。授業では、パワーポイントによる資料の他、A4用紙に印刷したプリント資料も配布した。授業機会(回数)と時間が限られていたため、前回配布したプリント資料であっても、その後の授業で必要な場合は、重複しても毎回印刷・配布し、確実に授業が進行するように工夫した。画用紙は浦安高校が購入した。画材・教材は、生徒の持参と浦安高校の備品、千葉敬愛短期大学の備品を必要に応じて活用した。

表3 教材の準備 「探究ゼミ」幼児教育学ゼミ「絵本の製作と幼児教育」

<p>八つ切り画用紙 1グループ1冊分 8枚～。絵本作品の本文ページ用。 四つ切り画用紙 1グループ1冊分 1枚。 絵本作品の表紙、裏表紙、背表紙用。 色鉛筆、水彩絵具(またはアクリル絵具)セット、筆洗容器、お手拭き、筆記用具、30cm～50cm定規、カッターマット(またはスケッチブックの表紙)、カッター(またはハサミ)、接着剤、油性サインペン、授業用ファイル、プロジェクター、スクリーン。 その他(任意)タブレット、スマートフォン、各種製作用素材・資料(生徒任意持参)。</p>

(2) 授業実践

ここでも主に2021年度の授業実践を軸にして記載する。前述の通り、2021年度はグループ学習、2019年度は個に応じた学習である。

第1回 全ゼミワークショップガイダンス 5月13日(木)

1年生(新入学生)全員が体育館に集合する。興味・関心のあるゼミの紹介・説明を聞くためである。生徒は事前に3つの受講希望ゼミを提出している。1つのゼミの紹介時間は20分である。ゼミ担当講師は、これを4回実施する。生徒は20分ごとに希望ゼミを回っていく。幼児教育学ゼミでは、パワーポイントを利用して、ゼミの紹介を行った。数冊の絵本も持参し、絵本製作を通じて幼児教育について考え

ることが目的であることを伝える。ポスター発表のような形式である。

第2回 概要説明（グループ分け、テーマの設定、「問い」創り、等） 6月24日（木）

○展開

活動内容	教師の支援
5時限 ○ゼミごとに指定教室（美術室）に出席する。 ○座席とグループの編成。（計16名。4名1組×4グループ） ○「授業の概要説明とグループ学習」（パワーポイント） ○グループ学習 自己紹介（所属クラス、氏名）	○新入学生のため、テーマ別より、相互に落ち着く雰囲気や人間関係を優先した。 ○探究ゼミの授業時間以外でも、必要があれば相互に連絡がとれるように、生徒にはお互いの所属クラスの確認を促す。
6時限 ○グループ学習 ・自分たちで「問い（探究テーマ）」を創る。 ・自分たちで「絵本作品のテーマ」を考える。 ・グループで協力して、絵本製作（実技）とレポート、発表資料の作成、発表（プレゼンテーション）を行うことを確認する。	○新入学生のため、全体的に緊張気味である。配慮しながら授業を進めた。 ○グループで協力し、作品イメージや進捗状況、問題意識等を共有することを伝える。 ○問いやテーマは仮・決定でよいことを伝える。今後、検討・吟味・修正する。

第1回目の授業の後、浦安高校が調整して受講生徒が確定している。生徒は各ゼミの指定教室に出席する。普段の所属クラスとは異なるクラス編成であるため、生徒の所属クラスは混在している。

「問い（探究テーマ）」は、ゼミ内発表会と学年発表会を念頭に置き、発表する際のテーマとなることを伝える。例えば、「幼児に適した絵本とはどのようなものだろうか？」等となる。「絵本作品のテーマ」は、この「問い（探究テーマ）」を踏まえて、自分達がグループで製作したい絵本作品のテーマ（タイトル）として決めることになる。内容は、シラバスの「テーマの例」等を手がかりにしながら、自分たちで自由に考える。例えば、スポーツや料理（作り方やレシピ等）、ファンタジー、季節、通学路、地域、等が具体例として考えられる。授業者からは、表現の自由もあるが、本授業では、「幼児教育」という視点を大切に、幼児にぜひ読み聞かせたい、幼児の成長に意義のある絵本のテーマを考え、設定するように指導した。こちらが心配するまでもなく、生徒は、身近で、幼児教育にも繋がりやすいテーマを自ら設定することができた。

第3回 グループ学習（製作プランの作成等） 7月1日（木）

○展開

活動内容	教師の支援
5時限 ○「幼児教育」と「絵本」について（パワーポイント、配布プリント） ・パワーポイントと配布プリントによる説明を理解する。	○授業資料に基づき、本授業の基本的な「幼児教育」と「絵本」の理解について説明する。この内容が本授業の基本的な定義と共通理解となることを伝える。
6時限 ○グループ学習 ・「問い（探究テーマ）」と「絵本作品のテーマ」の再検討。 ・絵本作品の構成を考える（内容、お話、絵）イメージマップ、ラフスケッチ、絵本構成案の記入。 ・絵本作品の各場面の製作担当者を相談・決定。 ・ふり返りプリント、提出プリントの記入・提出。	○前時の「問い（探究テーマ）」と「絵本作品のテーマ」の集計結果のプリントを各グループに配布する。生徒はそれを見ながら、改めてテーマを検討・吟味する。 ○今後も継続し、修正可能であることを伝える。

第3回「探究ゼミ」 グループ学習 授業資料「幼児教育と絵本について」

●幼児教育とは？

- ・幼稚園、保育所、認定こども園等で行う保育（教育）のこと。
（その他、家庭教育等を含める場合もある。）
- ・同年代の複数の子どもがいます。
- ・保育者（先生）が必ずいます。
（参考文献 無藤隆『幼児教育の原則』ミネルヴァ書房、2014）

●保育者について ～幼児教育・保育の仕事

- ①幼稚園（幼稚園教諭）
- ②保育所（保育士）
- ③認定こども園（保育教諭）
- ④児童福祉施設（保育士）
（参考文献 汐見稔幸、大豆生田啓友／編著『保育者論』ミネルヴァ書房、2018）

●幼児教育・保育の基本

- ①人格形成の基礎を培う。
- ②環境を通して行う教育及び保育。
（参考文献 汐見稔幸、大豆生田啓友／編著『保育者論』ミネルヴァ書房、2018）

●絵本について

- (1) 絵と文が複合的に働きあって成立する本。
- (2) 大人が子どもに読んで聞かせる。
- (3) 見開きの2ページで、1場面と考える。
（参考文献 生田美秋、石井光恵、藤本朝巳／編著『ベーシック絵本入門』ミネルヴァ書房、2013）

●「絵本の製作」について

- (1) 「八つ切り画用紙」に絵と文を描く。
- (2) 「八つ切り画用紙」を1場面と考える。
- (3) 「表紙・裏表紙」を付ける。
- (4) 「表紙・裏表紙」は「四つ切り画用紙」で製作する（予定。ページ数によって、本の厚みが影響を受けるため）

●本授業での「絵本の製作（実技）」の原則

- (1) 絵本作品は、12場面（24ページ）前後を目安とする。
- (2) 各メンバーは、必ず2～3場面以上を製作する。
- (3) 「タイトル」「表紙・裏表紙」を付ける。
- (4) 原則として、水彩絵の具で着彩する。
- (5) 「絵本作品」「問い」「レポート」に関連する資料を各グループで協力して、必ず収集する。
- (6) 一年間の「探究ゼミ」を通して、常に「絵本作品の内容」と「問い」を練り直し、修正する。

●グループ学習・製作プランの作成等

- ①「絵本作品のテーマ」の相談
- ②内容とストーリーを考える ※
- ③絵を考える ※
- ④「問い」と「絵本作品」を検討する ※
- ⑤絵本作品の構成を考える ※
※印は、次回も継続して実施する。

夏季休業 講座外活動計画「資料調査と体験学習（製作プランの作成等）」

中止。

第4回 グループ学習（作品製作等） 9月16日（木）

中止。本論では、第4回目の授業計画と第5回目の授業計画とを併せて記載する。

第5回 グループ学習（作品製作等） 10月14日（木）（※第4回目の授業計画を含む）

○展開

活動内容	教師の支援
<p>5時限</p> <ul style="list-style-type: none"> ○絵本の場面と構成について <ul style="list-style-type: none"> ・配布プリントをもとに理解する。 ○絵本作品の製本の方法を確認する（見本）。 ○本授業の絵本製作の変更点を確認する。 ○グループ学習 <ul style="list-style-type: none"> ・各グループで相談・検討して進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○配布プリントの記入は箇条書きで良いことを周知する。絵本作品を製作・完成させることが目的なので、配布プリントの記入に集中力が分散しないようにする。 ○各場面の製作担当者の確認をする。特定の生徒に作業や負担が集中しないようにすることを徹底する。 ○絵本製作の変更点を確認する。前時の休講に伴い、生徒の絵本製作の負担を軽減した。
<p>6時限</p> <ul style="list-style-type: none"> ○グループ学習（5時限目の続き。絵本作品の製作） <ul style="list-style-type: none"> ・絵本の構成の見通しがある程度ついたら、実際に八つ切り画用紙に鉛筆デッサンをする。 ・絵やイラスト、お話の文字のレイアウトも意識する。 ○次回の授業では、着色も実施する。 ○もしよければ、各自で絵本製作に必要な資料を収集・持参する（生徒任意持参。経済的負担のないように要・配慮）。 	<ul style="list-style-type: none"> ○いつまでも配布プリントに集中するのではなく、実際の画面（八つ切り画用紙）に描き始める。鉛筆デッサンをしながら、配布プリントではなく、実際の画面の密度を高めるように指導する。 ○鉛筆なので何度でも修正可能であることを伝える。 ○絵本構成案に基づきながら、お話と絵と各場面構成を何度も相談して吟味する。 ○表紙と裏表紙、背表紙は、最終的なページ数と場面構成が確定したら製作する。製作担当者が別途必要なことを伝える。 ○グループのメンバー全員が、「(仮) 問い」「製作する絵本作品のテーマ」「場面構成」「イメージ」「製作状況とスケジュール」を共有し、共通理解した上で、相互に協力して楽しく取り組むように促す。 ○計画は今後も修正可能なことを周知する。

○授業配布プリント（第5回目。※第4回目を含む）①

探究ゼミ・第5回「グループ学習 絵本製作①」

●今後の授業の予定

第4回	9月16日(木)	グループ学習 絵本製作① ※中止
第5回	10月14日(木)	グループ学習 絵本製作①
第6回	11月 4日(木)	グループ学習 絵本製作②
第7回	11月18日(木)	グループ学習 絵本製作③ 検討会 発表資料・レポート作成
第8回	12月 2日(木)	レポートと発表資料の作成。 レポート提出（予定）
12月23日(木) プレゼンテーション（発表）資料の提出（予定）		
冬季休業		
第9回	1月13日(木)	ゼミ内プレゼンテーション
第10回	1月27日(木)	学年プレゼンテーション

●配布プリントについて

- (1) プリント①「探究ゼミ・第5回 グループ学習 絵本製作①」（本紙） ※各自保管
- (2) プリント②「絵本の場面構成と役割分担」（控え用） ※各自保管・提出する必要はありません。
※各自の控え用として記入・保管してください。
- (3) プリント③「絵本の場面構成と役割分担」（提出用） ※グループで1枚提出
 - ・各グループでプリントに記入し、提出してください。
 - ・プリントには、場面ごとに担当者氏名を必ず記入してください。
 - ・プリントには、場面ごとにお話の内容を記入してください。簡条書きで大丈夫です。
 - ・表紙（裏表紙）も製作します。

●本授業の絵本製作の修正点

前回までの授業「1人2場面以上の製作を担当する。」・・・ × 変更します。
 → ○ 「1人1場面以上の製作を担当する。」
 自分たちで考えた絵本作品のお話や場面構成をもとに、ページ数は柔軟に決めていきます。

●グループ学習 絵本製作①

- (1) 各グループで、「（仮）問い」と「絵本作品のテーマ」を再確認してください。
 - ・前回までの授業資料を要・参照。 ※今後も修正可能です。
- (2) 絵本作品の製作
 - ・八つ切り画用紙に製作します。・・・ 鉛筆デッサン
 - ・鉛筆デッサンをした後、水彩絵具で着色をして完成です。
 - ・絵本作品の場面構成と役割分担を相談して決めてください。（プリント③に記入・提出。）
 - ・表紙（裏表紙）は、ページ数と場面構成が確定したら製作してください。

●次回の授業 次の用具と資料を持参してください。

①筆記用具（鉛筆） ②水彩絵の具セット ※必須 ③絵本製作に必要な資料
 グループのメンバー全員が、「（仮）問い」「製作する絵本作品のテーマ、場面構成、イメージ」「製作状況とスケジュール」を共有し、共通理解した上で、相互に協力して楽しく取り組んでください。
 よろしく願いいたします。

○授業配布プリント（第6回目）①

探究ゼミ・第6回「グループ学習 絵本製作②」

●今後の授業の予定

第4回	9月16日(木)	グループ学習—絵本製作① ※中止
第5回	10月14日(木)	グループ学習 絵本製作①
第6回	11月 4日(木)	グループ学習 絵本製作②
第7回	11月18日(木)	グループ学習 絵本製作③ 検討会 発表資料・レポート作成
第8回	12月 2日(木)	レポートと発表資料の作成。 レポート提出（予定）
12月23日(木) プレゼンテーション（発表）資料の提出（予定）		
冬季休業		
第9回	1月13日(木)	ゼミ内プレゼンテーション
第10回	1月27日(木)	学年プレゼンテーション

1. 絵本の作品製作（実技）について

(1) 「絵本の場面構成と役割分担」一覧表をもとに、作品製作を行う。

①絵本の場面構成の検討と担当者の確認

②鉛筆デッサン → 水彩着彩

※その他、造形的な表現技法の併用も可能。

※1人1場面以上の製作を担当する。

※今後も修正可能です。

③表紙（裏表紙）を製作する。タイトルを確定する。総ページ数を確定する。

④製本 → 完成

(2) ゼミ内プレゼンテーション（発表）の計画表の作成（今後の予定）

①絵本製作の場面構成と担当者をもとに、ゼミ内プレゼンテーション（発表）の構成と担当者を決定する。

②ゼミ内プレゼンテーション（発表）で、絵本作品以外に必要な資料やデータについて検討する。

③ゼミ内プレゼンテーション（発表）で必要な発表資料を準備・作成する。

※今後も修正可能。

(3) 小レポートの作成の準備（今後の予定。具体的な詳細は、次回以降に説明）

①絵本作品とゼミ内プレゼンテーション（発表）の資料をもとに、小レポートを作成する。

※絵本作品と、ゼミ内プレゼンテーション（発表）の資料と、小レポートの内容は、相互に関連する。

②各グループの「問い」を確認し、自分たちの結論を考える。

※今後も修正可能。

2. 次回の授業に必要な用具と材料、資料

①筆記用具（鉛筆） ②水彩絵の具セット ③はさみ（カッター） ④接着剤 ⑤色鉛筆 ⑥30cm以上の定規 ⑦その他、各自で製作に必要な素材 ⑧各自で必要な資料

各グループのメンバー全員が、「(仮) 問い」「絵本作品のテーマ、場面構成、イメージ」「製作状況とスケジュール」を共有し、共通理解した上で、相互に協力して楽しく取り組んでください。

不明な点や支障のある点があれば、遠慮なく授業担当者までご確認ください。よろしく願いいたします。

○授業配付プリント（第6回目）② グループ発表 発表の基本的な構成（例）

探究ゼミ・第6回「グループ学習 絵本製作②」 ゼミ内プレゼンテーション（発表）の概要について グループ発表 発表の基本的な構成（例）		
1	自分たちの「問い」について。	担当者
2	幼児教育について。絵本について。	担当者
3	自分たちが作った絵本について。	担当者
4	製作した絵本作品の読み聞かせ。（※製作中）	担当者
5	絵本製作を行ってみて気がついたこと、学んだこと、感想（幼児教育の視点から）。	担当者
6	自分たちの結論。成果と課題。	担当者

※発表の構成や内容は、これから相談・検討していただきます。
※各項目に、それぞれ1名～複数名の発表担当者を配置していただきます。

第7回 検討会（プレゼンテーション資料とレポートの作成） 11月18日（木）

○展開

活動内容	教師の支援
5時限 ○絵本作品の完成 ・着彩 ・表紙（裏表紙）の製作。 ・タイトルの決定。 ・総ページ数の確認。 ・内容・構成の最終検討・決定 → 製本 → 完成	○前時までの確認と配布プリントの説明。 ○当初は、原則として水彩絵具による着彩を想定していた。絵具の準備・後片付けの手間がかかるが、発色が良く、作品の完成度が高くなり、視覚的効果も強くなるためである。しかし、授業中に、色鉛筆による着彩やカラーサインペンによる着彩を希望するグループが現れた。色鉛筆は、丁寧に色を塗り込まないと視覚的効果が損なわれるため、心配ではあったが、生徒の意向に沿って活用することになった。自分たちの意向が通り、イメージ通りに製作することが可能となったことが功を奏したのか、結果的には、非常に丁寧な仕上がりの完成度の高い作品となった。

<p>6時限</p> <p>○「発表計画表」と「発表資料」の作成 ※準備（次回実施予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表（プレゼンテーション）の構成と担当者を決定する。 ・「発表計画表」に記入する。 <p>○「発表資料」を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「発表用資料用紙」にカラーサインペン等で手書きで記入する。パワーポイントのスライドを作成する要領で行う。 ・自分が発表する箇所を相談して決定する。 <p>○幼児教育に関する「問い」を改めて確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちなりの結論を導き出す。 <p>○レポートの作成 ※準備（次回実施予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで1つのレポートを作成する。 	<p>○絵本作品がまだ完成していないので、まずは絵本作品を完成させる。</p> <p>○絵本製作を行いながら、相談できることは、グループ内で相談し、今後の作業の役割分担と段取りを明確化する。</p> <p>○「発表資料」と「レポート」を、それぞれ1つずつ、グループで協力して作成すること、内容は基本的に同じになることを説明する。</p> <p>○絵本作品の製本の方法を、見本をもとに確認・説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八つ切り画用紙の画面を1場面（2頁見開き）と考える。描画が完成した全ての画面（画用紙）を半分に谷折りにする。頁順に重ねる。前頁の画面の背面（半分の面積）と次頁の画面の背面を重ね合わせ、糊付け（接着）する。全ての画面（画用紙）でこれを繰り返す。画面が全て貼り付けられ、一繋がり状態の作品ができる。最初の頁の画面の背面と最後の頁の画面の背面を包むようにして四つ切り画用紙を合わせる。総ページ数によって厚みが変わるため、その厚みの分が背表紙の幅となる。その幅も含めて、作品の画面に合わせて四つ切り画用紙を裁断する。表紙、背表紙、裏表紙の面積に合わせて折り目や記しを付けて裁断する。作品と表紙の背面を相互に糊付けして完成する。 <p>○今後も修正可能なことを伝える。</p>
--	--

○授業配付プリント（第7回目）① 発表用資料用紙 A4・横



2021（令和3）年度 千葉県立浦安高等学校 「探究ゼミ」（幼児教育学「絵本の製作と幼児教育」）
A・B・C・Dグループ （No. ）

○授業配付プリント（第7回目）② グループ発表の基本的な構成（案）

探究ゼミ・第7回「グループ学習 絵本製作③」
ゼミ内プレゼンテーション（発表）の概要について
グループ発表 発表の基本的な構成

発表時間 5分（予定）

1	自分たちの「問い」について。	担当者
2	幼児教育について。絵本について。	担当者
3	自分たちが作った絵本について。	担当者
4	製作した絵本作品の読み聞かせ。（※製作中）	担当者
5	絵本製作を行ってみて気がついたこと、学んだこと、感想（幼児教育の視点から）。	担当者
6	自分たちの結論。成果と課題。	担当者

※発表の内容は、これから相談・検討いたします。
※各項目に、それぞれ1名～複数名の発表担当者を配置することになると思います。

○授業配布プリント（第7回目）③ 「探究ゼミ」レポート 表紙の記入例

探究ゼミ レポート 表紙の記入例

題（問い）
『○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○』
※製作した絵本作品の題名
『○○○○○○○』

所属ゼミ： 幼児教育学ゼミ「絵本の製作と幼児教育」

指導者： 久保木 健夫、成嶋 夏実

執筆者：グループ A・B・C・D

1年○組○○番 名前： ○○○○○○○

1年○組○○番 名前： ○○○○○○○

1年○組○○番 名前： ○○○○○○○

1年○組○○番 名前： ○○○○○○○

○絵本作品の製本の方法(例) (見本・具体物を掲示しながら説明)

①八つ切り画用紙を半分に谷折りする。

②前頁と次頁の背面同士を糊付けする。

③一繋がりになる。

④糊付けした一繋がり状態の作品(八つ切り画用紙)に、四つ切り画用紙を、表紙・背表紙・裏表紙の面積と厚みに合わせて、折り目や記しを付けて裁断する。

⑤作品と表紙・裏表紙の背面同士を糊付けする[製本完成]。(右綴じ、左綴じのどちらも可。)

第8回 レポート作成、及び提出/プレゼンテーション資料作成 12月2日(木)

○展開

活動内容	教師の支援
<p>5時限</p> <ul style="list-style-type: none"> ○途中評価の観点(要点)を周知する。(配布プリント) ○グループ学習 <ul style="list-style-type: none"> ・本時が発表会まで最後の授業であることを確認する。 ○「絵本作品」を完成・提出する。(目標) ○「発表資料」を完成・提出する。(目標) ○「レポート」を完成・提出する。(目標) <ul style="list-style-type: none"> ・「問い」と「結論」を最終決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○幼児教育学ゼミの途中評価の観点について、要点を生徒に周知し、その後の生徒の成長を追う。 ○図や表は、「発表資料」にも、「レポート」にも加えることができることを伝える。 ○イラストやデザイン、装飾、等は、「発表資料」には加えることができるが、「レポート」には加えることができないことを伝える。 ○本時で最終決定することを伝える。 ○「発表用資料用紙」にカラーサインペン等で手書きする。絵本作品の場面やパワーポイントのスライドを作成する要領で行う。
<p>6時限(5時限目の続き)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○次回のゼミ内プレゼンテーション(発表会)について説明する。 ○「発表用資料用紙」(A4・横)について確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・発表では、現在製作中の自分達の絵本作品の読み聞かせを含めて行う。 ・見開き1場面で1枚の発表用スライドに相当する。 ・自分が発表する箇所を相談・決定・確認する。 ・発表と絵本の読み聞かせは、必ず1名1回以上を担当する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学年発表会では、手書きの用紙を撮影し、デジタル画像をパワーポイントに貼り付け、プロジェクターで映写する。 ○ゼミ内発表会では、時間の問題もあり、手書きの原稿を見せながら、紙芝居の要領で発表する。自分たちの絵本作品も、実物の絵本を見せながら、読み聞かせ・発表する。 ○グループ発表は、役割分担と担当を決め、合唱祭のパート練習の要領で進めるとイメージしやすい。 ○相互に協力して、楽しく元気に取り組むように励みます。

○授業配布プリント（第8回目）①

探究ゼミ・第8回「レポートと発表資料の作成」

●今後の授業の予定

第8回	12月 2日(木)	レポートと発表資料の作成。 レポート提出（予定）
12月23日(木) プレゼンテーション（発表）資料の提出（予定）		
冬季休業		
第9回	1月13日(木)	ゼミ内プレゼンテーション
第10回	1月27日(木)	学年プレゼンテーション

探究ゼミ・第8回「レポートと発表資料の作成」

1. 絵本作品の検討（グループ学習）

- ①絵本作品の検討・・・各グループで絵本作品の読み聞かせ
- ②製本・・・完成

2. 「発表資料」の作成・提出（グループ学習）

- ①「発表計画表」を確認・共有する。
- ②幼児教育に関する「問い」と「結論」を、グループごとに再確認し、最終決定する。
・「問い」について、絵本を製作した体験をもとに、自分たちの「結論」を書く。
- ③「発表資料」を作成する。
・必要な資料（授業配布資料を含む）と自分たちの絵本作品の確認をする。
・「発表計画表」をもとに、グループごとに協力して「発表資料」を作成する。
- ④より魅力的な発表となるように、グループごとに工夫する。
(例) ・図や表、イラスト、等を加える。
・明るく落ち着いた印象のある装飾、等を加える。
・文字等をデザインしたり、着色したりする。
- ⑤完成

3. レポートの作成・提出（グループ学習）

- ①「発表計画表」と「発表資料」をもとに、「レポート」を作成する。
- ②内容は「発表資料」と基本的に同じとなる。
※1 図や表については、「発表資料」にも、「レポート」にも、加えることが可能である。
※2 イラストやデザイン、装飾、等については、「発表資料」には加えることが可能だが、「レポート」には加えない。
- ③完成

4. 「授業プリント」（配布プリント）の記入・提出（予定）

- ①各グループで作成する「レポート」とは別に、各自で記入・提出する。
- ②「授業プリント」は、今回の「探究ゼミ（幼児教育ゼミ）」の各自のまとめとなる。
- ③次回・第9回「探究ゼミ（学内プレゼンテーション）」の授業回で提出予定。

記入する時のお願い

提出していただいたプリントを拝見すると、せっかく提出していただいたのに、提出用紙に書かれた文字がうすくて（筆圧が弱くて）、読み取りにくいものが複数ありました。せっかく時間と手間をかけて提出するので、記入する時は、読み取りやすいように、少し強めに記入してください。相互に協力して、元気に楽しく取り組んでいただきたいと思います。不明な点や支障のある点があれば、遠慮なく授業担当者にご連絡ください。どうぞ、よろしく願いいたします。

「レポート」の記入について

●表紙の記入について

- ①「レポート」の題は、グループで設定した「問い」をもとに、自分たちで「レポート」の題名を付けて、記入してください。
- ②その他、各グループで所定の記入欄に記入してください。
- ③別紙の「記入例」を参照して、「題（問い）」の下のスペースに、グループで製作した絵本作品の題名も記入してください。

●本文の記入について

1～7の各章と、（ ）の項目を、各グループで用紙に書き、その内容を自分たちの考えに基づいて記入してください。具体的には、別紙の「記入例」を参照してください。

1. 「問い」を設定した理由

グループで設定した「問い」（疑問点）を紹介してください。その後、その「問い」を設定した理由や考え、想いを記入してください。

2. 研究方法

今回の「探究ゼミ」の授業では、絵本の製作（実技）を通して、幼児教育や子ども、絵本について考えました。ここでは、自分たちのグループで取り組んだ活動内容の概要を、最初に紹介します。具体的な取り組み内容の全体の様子がわかるように、簡潔に紹介してください。

3. 「幼児教育学ゼミ」の授業で考える「幼児教育」と「絵本」について

この部分の(1)～(4)の項目は、本授業の共通理解の部分となります。そのため、全グループが必ず同じ内容を記入してください。別紙・配付プリント「本文の記入例」の「7. 引用・参考資料」（第3回目授業配付資料）を参考にしてください。

- (1) 「幼児教育」について
- (2) 「保育者」について
- (3) 「幼児教育・保育の基本」について
- (4) 「絵本」について

4. 絵本の製作と幼児教育について（探究内容）

(1) 絵本のテーマとテーマを設定した私たちの想い

絵本を通して、読者（幼児）に届けたいと考えた想いについて記入してください。この部分は、各グループが、自分たちの想いや考えについて記入する箇所です。

(2) 絵本作品の構成と内容の紹介

「本文の記入例」（別紙）をもとに、自分たちの製作した絵本作品の題名、総ページ数、内容（お話）、を具体的に簡潔に記入してください。

(3) 絵本を製作してみて気がついたこと・学んだこと

検証の部分です。絵本製作（実技）を通して感じたこと、気がついたこと、学んだことを記入してください。製作の過程（プロセス）の様子や、製作で重視したこと等の記入でも大丈夫です。具体的に、わかりやすく記入してください。

5. 結論

「レポート」全体の結論を記入します。上記の「1.『問い』を設定した理由」で書いた「問い」（疑問点）に関する自分たちなりの結論（考え）です。絵本の製作体験（実技）も含めて、自分たちで考え、記入してください。

6. まとめ（今後の課題と抱負）

「まとめ」の部分です。今回の授業全体を振り返り、「幼児教育」と「絵本」について、自分たちが今後取り組んでみたい課題や抱負について記入してください。

7. 引用、参考資料

「本文の記入例」（別紙）を参考に、次の(1)(2)の部分を入力してください。

(1) 授業配布プリント（参考資料。※第3回目授業配付資料を参照）

この部分は、本授業の共通理解の部分となります。そのため、全グループが同じ内容を記入してください。

(2) 各グループで調べた資料 ※この項目はなくても大丈夫です。

この部分は、各グループで調べたり、参考にしたりした資料があれば、その資料の名称等を記入してください。HP（ホームページ）を参考にした場合は、そのHPの名称とアドレスを順番に記入してください。

12月23日 プレゼンテーション資料提出

冬季休業

冬季休業までに、全グループの生徒が、絵本作品とレポートを完成させ、提出を済ませた。授業時間内では完成しなかったため、放課後等の授業時間以外に、自分たちで自主的に残って作成したということである。絵本作品は4作品とも素晴らしい出来映えだった。レポートも、皆で協力して、しっかり書かれていた。

第9回 ゼミ内プレゼンテーション 1月13日(木)

○展開

活動内容	教師の支援
5時限 ○ゼミ内発表会の準備と練習（各グループ） ・絵本作品、発表資料の確認。 ・役割分担の確認。 ・絵本作品の読み聞かせを含めた発表の準備と練習。 ○ポイント「わかりやすく、ゆっくり話す。」	○事前に必ず一度は、全体を通して、声に出して、全員が発表（練習）をしてみるように伝える。
6時限（5時限目の続き） ○ゼミ内発表会 全4グループ 合計発表時間 40分（予定） ・ゼミ内発表会の「授業配布プリント」に記入しながら発表を聞く。 ○発表終了。 ○発表配布プリントに記入・提出する。 ○学年発表会での発表者を選出する。 ○授業のまとめ	○発表会での共通理解を確認する。 ・発表の始まりと終わりに、聴いている人は必ず拍手をする。 ・授業時間以外も含めて、冷やかしたり、茶化したりしない。悪口を言ったり、攻撃したりもしない。 ○授業配布プリントは最後に提出することを伝える。

○授業配布プリント（第9回目）①

探究ゼミ・第9回「ゼミ内プレゼンテーション」		
●今後の授業の予定		
第8回	12月2日(木)	レポートと発表資料の作成。—レポート提出(予定)—
—12月23日(木)—プレゼンテーション(発表)資料の提出(予定)—		
—冬季休業—		
第9回	1月13日(木)	ゼミ内プレゼンテーション
第10回	1月27日(木)	学年プレゼンテーション
1. ゼミ内発表会の準備と練習（各グループ） ①絵本作品、発表資料の確認。 ②役割分担の確認。 ③絵本作品の読み聞かせを含めた発表の準備と練習。 ポイント わかりやすく、ゆっくり話す。		
2. ゼミ内発表会 ①各グループ 発表時間 5分。前後の準備と移動 約5分。 ②全4グループ 合計発表時間 40分（予定） ③「ゼミ内発表会」の授業プリントに記入しながら発表を聞く。		

※プリントは最後に提出いたします。

●探究ゼミ・幼児教育学「絵本の製作と幼児教育」の授業で大切にしたいポイント

1. 創意・工夫しながら絵本作品を丁寧に完成させる。
2. 自分たちのよさを発揮して、意欲的にレポートにまとめ、発表を行う。

○授業配布プリント（第9回目）②

第9回 ゼミ内プレゼンテーション	
A B C D	グループ 1年 組 出席番号 氏名
1. 他グループの発表を聞いて、「良かったところ・学んだところ」を記入してください（簡条書き可）。 ※自分たちのグループの記入欄には、斜線を引いてください。	
グループ名	発表を聞いて良かったところ・学んだところ
A	「夢の世界」（絵本作品『夢の世界』）
B	「どうしたら あいさつが できるようになるか」（絵本作品『「あいさつ」って どうやってするの?』）
C	「子供はなぜ色んなことに興味と疑問をもつのか。」（絵本作品『ハリネズミのケーキ屋さん』）
D	「子供は1日どう過ごすのか?」（絵本作品『たろうくんのいちにち』）
2. 自分たちのグループの良かったところと、今後の課題と抱負を記入してください（簡条書き可）。 自分たちのグループ名（A・B・C・D）グループ	
自分たちのグループの 良かったところ	
今後の課題と抱負	

ゼミ内発表会は、どのグループの発表も非常に素晴らしかった。授業者の当初の予想をはるかに上回る内容と出来映えだった。発表した生徒は、程良い緊張感も感じられた様子である。授業のまとめとして、授業者が標準と考えていた内容を、全てのグループが上回っていたこと、発表は特に経験や回数も必要であること、今回の「探究ゼミ」を通じて、幼児教育や絵本、学校の諸活動、学習・勉強に少しでも興味や関心を持ってもらえたら嬉しく思うこと等を伝えた。

第10回 学年プレゼンテーション 1月27日(木)

授業者は当日欠席した。学年プレゼンテーションは、当初の日程で、浦安高校で実施された。後日、ゼミ担当の成嶋教諭から、幼児教育学ゼミが優秀賞を受賞したという連絡をいただいた¹⁰⁾。生徒は皆、非常に喜んでいて、ということであった。

4 作品製作（実技）・レポート作成・プレゼンテーション（発表）の一体的な授業

(1) 個に応じた学習

2019年度は、個に応じた学習の形で授業を実施した。授業はグループ単位で進めたが、各自（1名）

が絵本作品（1冊）とレポートを作成し、提出した。授業者には、生徒一人一人の絵本製作やレポートに対する考えやイメージを尊重したいという思いが存在した。生徒の負担や授業に要する時間の問題は、事前にある程度の想定ができた。ただ、高校1年生に限らず、絵本製作（実技）からレポート作成、プレゼンテーション（発表）までを一貫して実施した先行事例が、これまであまり見られなかったこともあり、実際に実施してみないとわからない側面も存在した。

生徒の作品とレポートは、2019年度も、事前の想定以上に密度の高い成果物が提出された。しかし、やはり作業負担が非常に大きく、授業時間以外のかかなりの時間を、生徒と共に、ゼミ担当者をはじめとする浦安高校の先生方が補うこととなった。また、発表時間が限られているため、全員の作品とレポートの内容を発表することができず、グループ内で1～2名の内容を中心に絞り、整理して発表する形を採らざるを得なかった。当然ながら、どの発表作品も密度の高い作品が選択されていたが、中には生徒の性格が大人しいため、非常に優れた作品やレポートであっても、発表の場には出てこない成果物も存在した。絵本製作は何枚もの画面を完成させなければならないため、生徒（製作者）の負担がどうしても大きくなる。ただ、個に応じた形で展開すると、自ら自分自身の絵本作品をクラスで読み聞かせをして質問紙調査を実施し、その調査結果を図や表に表し、発表するという生徒も現れた。中高生の読書率とその傾向を自ら調べ、レポートに反映させた生徒も複数存在した。非常に優れた描写力を持ち、素晴らしいイラストレーションを全頁にわたって描ききり、絵本作品を完成させる生徒もいた。グループ学習の標準的な水準や枠に当てはめることなく、個に応じた学習を展開すると、こちらの想定以上の力を発揮する生徒が存在することがわかった。授業を実施する際の実際的な問題と、生徒の関心や意欲、成長過程の資質や能力の問題との折り合いを付けることも必要だと考えられる。

（2） グループ学習

2021年度は、グループ学習の形で実施した。グループ学習は浦安高校からの要請でもあった。2019年度をふり返り、生徒等の負担の大きさを考えると、授業者自身も、2021年度はグループ学習の実施に異論はなかった。グループ学習は、個人の考えやイメージが反映されにくい面もあるが、グループ内で問いや結論を導き出すため、リスクを含めた成果や課題を相互に共有でき、生徒間に一種の安心感や連帯感が生まれている感じが感じられた。思春期で多感な高校1年生にとっては、個が突出する状況よりも、仲間や友人と協調する活動の方が取り組みやすいのかもしれない。コミュニケーション能力や調整力等の社会的な能力も否応なく求められる。場合によっては、不平等や理不尽さのような問題も生じているのかもしれない。しかし、ある程度の社会的問題に対応する力は、今後、授業や学校以外で生活していく上でも必須の能力でもある。この時期にこうしたグループ学習を実施することは、意義のあることなのかもしれない。グループ学習の形でも、生徒はこちらの想定以上の密度の高い成果物を発表・提出した。個々に焦点を当てると、それぞれに成果や課題は存在するが、2019年度と比較すると、確かに負担は軽減されながらも、ある一定の学習成果を獲得することはできたと考えている。

5 おわりに

「探究における生徒の学習の姿」については、『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』に、「日常生活や社会に目を向け、生徒が自ら課題を設定する」「探究の過程を経由する ①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現」「自らの考えや課題が新たに更新され、探究の過程が繰り返される」と示されている¹⁰⁾。この学習過程のあり方と、今回の「探究ゼミ」・幼児教育学の授業は、内容の構造的な面で合致する点が多かった。「問い（探究のテーマ）」と「絵本製作のテーマ」をそれぞれ区別して設定する必要はあるが、絵本作品の各場面の製作と、発表資料の各項目の作成、レポートの各項目の作成には共通点があり、繋がりのある一連の学習活動として進めることが可能だった。この点を

ポイントとして押さえると、生徒が役割分担をして、自分たちで学習を進めていく場合でも、混乱なく、円滑に進めることができる。発表用資料を、パワーポイントのスライドで作成する要領と同じである。

絵本の製作のような実技を通した学習活動は、従来はあまり重視されてこなかったと感じている。今回の「探究ゼミ」のように、「幼児教育」という視点を設定し、その視点から探究・考察するための具体的な手立てや方法として、作品製作や実技を導入し、その過程を学習過程としてふり返り、まとめ、発表すると、生徒にとっては、親しみやすく、楽しく取り組みやすい学習活動として展開・成立することが可能になると感じた。多様な「問い」や「テーマ」を設定することも可能である。

絵本や造形・美術に留まらず、色や形、お話やイメージ、幼児教育・保育に興味や関心を示す生徒は多い。多様な生徒の興味や関心を健全に伸ばし、学校教育において求められる資質や能力を育むことが大切である。生徒が安心・安全に伸び伸びと諸活動に取り組み、幼児教育・保育を含め、今後の進路や学習活動にも好影響を及ぼす「総合的な探究の時間」の学習や、汎用性の高い絵本や造形・美術教育のあり方を研究、蓄積することは意義のあることだと考える。

■註

- 1) 千葉敬愛短期大学総合子ども学研究所『年報』(2017年度、2018年度、2019年度、2020年度)
- 2) 文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総合的な探究の時間編 平成30年7月』2019年
- 3) 千葉県総合教育センター『令和2年度「総合的な探究の時間」の進め方ガイドブック 令和3年3月』(「理論編」「実践編・暫定版」)2021年
- 4) 千葉県立長生高等学校『総合学習テキスト 長高メソッド2020』(「Ⅰ学習法の科学」「Ⅱ社会実践の科学」「Ⅲ研究法の科学」)、2020年
- 5) 色部和子「『想像力と創造力』を豊かにする図画工作の授業についての考察：絵本制作を通して」『千葉敬愛短期大学紀要 第40号』2018年、p.29-40
- 6) 和田直人／編『手作り絵本SMILE 創る喜びと広がるコミュニケーション』朝倉書店、2017年
- 7) 中沢仁／指導・監修『調べたことを発表しよう』(全5巻)文研出版、2002。(「①発表の方法や進め方を考えよう」「②表現を工夫した発表をしよう①」「③表現を工夫した発表をしよう②」「④みんなの前で発表しよう」「⑤発表の場を広げよう」)全国学校図書館協議会選定図書。
- 8) 佐久間敦子は、千葉敬愛短期大学ゼネラルサポーターとして、高大連携を推進した。元・千葉県立高校校長(国語科教育)である。2019年度は「探究ゼミ」幼児教育学ゼミの第2回授業も担当している。毎回の「探究ゼミ」の連絡・調整・支援を担っている。吉村真理子は千葉敬愛短期大学教授(発達心理学、教育相談)である。
- 9) 2021年度は、新型コロナウイルスの感染予防対策のため、計10回の授業のうち、第4回目の授業が休講、第10回目の学年発表会は、久保木は欠席した。
- 10) 「探究ゼミ」幼児教育学ゼミは、2019年度、2021年度の2回、浦安高校から優秀賞をいただいた。
- 11) 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』前掲書、p.12

[謝辞] 本研究の機会を与えてくださった千葉県立浦安高等学校の生徒の皆様、若菜秀彦校長(2019～2020年度)、石川純一校長(2021年度)、久保善啓教諭(2019～2021年度)、大平豊教諭(2019～2021年度)、生芝美耶教諭(2019年度)、松園ひかり教諭(2020年度)、成嶋夏実教諭(2021年度)、大川信子教諭(2019年度)、鈴木さおり教諭(2021年度)をはじめ、千葉県立浦安高等学校の関係者の皆様、「探究ゼミ」の関係者の皆様、千葉敬愛短期大学の明石要一学長、佐久間敦子ゼネラルサポーター、吉村真理子教授、鈴木健一教授をはじめ、関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

シフォン遊びのための歌 [創作 (作曲)]

大野 雄子

シフォンスカーフを使った遊びは、保育の場でよく行われています。とりわけ3歳未満児にとっては、「いない、いない、ばあ」の変形のように半透明な薄地のシフォンから隠れていた顔が現れる意外性や、シフォンの色彩、軽やかな動きから情感豊かな心を育む魅力的な教材です。

しかし、シフォンで遊ぶ際に歌う遊び歌は、種類が多いとはいえません。そこでシフォンの特徴ある動きが引き出せる遊び歌を三曲作りました。

「あまやどり」は、シフォンの四隅にフェルト製の雨のしずく貼り付け、その重みから投げた時に傘のように落ちてくるシフォンの下に子どもを入れて遊ぶようにしました。

「さくらのはなびらひらり」は、造花または、フェルトを切り抜いた桜の花びらをシフォンに貼り付け、風邪に桜の花びらがひらひらと待っている様子を表現します。

「星をおいかけて」は、L. V. Beethoven 作曲、ピアノソナタ第8番 ハ短調 作品13『悲愴大ソナタ』“Grande Sonate pathétique”のアレンジに詩を付けました。シフォンの一隅にフェルト製の星を貼り付けると、高く投げた時に重さのバランスによって流れ星のように落下します。シフォンの動きと日暮れや眠りにつく子どもの心象風景を重ね合わせて遊べるように考案しました。

あまやどり

作詞 大野雄子
作曲 大野雄子

♩ = 94



ほっ っん ほっ っん と あま だれ が おて て や お か お に おち て き た
こ み ち の あ じ さ い ぬ ら し ま す



た す け て た す け て か え る さ ん お い け の な か に に げ こ ん だ
か た つ む り は っ ば の か げ に か く れ た よ



た す け て た す け て ○ ○ ち ゃ ん は ま ま の か さ に あ ま や ど り

さくらの花びらひらり

作詞 大野雄子
作曲 大野雄子

♩ = 76

さくらの花びら ひらり かぜにふかれて ひらり とおいやまこえ

6

たにこえて ひらひらまいおどる うー うー どうか わたしの かたにとまって

13

く だ さい

星をおいかけて

ベートーベン ピアノ・ソナタ8番「悲愴」2楽章より

作詞 大野雄子
作曲 Beethoven

♩ = 120

ふわ ふわ りーん かぜに ふかれて あかねの ひつじ おいかけます

16

ー ふわ ふわ りーん のはらもまちも からすがうたーう かげえのせか

31

い つきの うさぎと ー くまをはしる ほしを おいけて ー

45

めをとじると「ほら」 ゆめが うごきだす あさがくるまで ー

鈴木 健一

About consciousness of the language use

Kenichi SUZUKI

キーワード：言語使用の意識、意識調査

1 ねらい

本学の学生は、個人的な見解であるが、さまざまな教科で書く機会が多いため、卒業時には書くことに対する抵抗感が少なくなり書く力も向上していると言える。

今回の調査では、文章を書くことにおいて、言語使用の面からどういう意識でいるのかを調べるとともに、課題を明らかにしていくこともねらいとした。

2 入学前の生徒の文章から

本学入学前の生徒26名の文章における問題点を調べた。いずれもほぼ800字の文章である。今回の調査では、内容の不足や論点の曖昧さなどは対象とせず、文字や語彙、表記法の視点から点検した。

点検の結果、誤用や不適切な表現として、以下のような事例が見られた。なお、整理するに当たっては、次のようにした。

・ → で示しているものは、左が正解、右側が誤りまたは不適切な表現である。

正 → 誤、不適

・ () の数字は出現数。ただし1例の場合は記述しない。

(1) 調査結果

① 漢字の誤用

- ・ 個 → 個 ・ 耐 → 耐 ・ 達 → 達 ・ 初 → 初 (5) ・ 稚 → 稚 ・ 当 → 当 ・ 報 → 報
- ・ 違 → 違 ・ 禍 → 禍 ・ 初 → 始 (2) ・ 摘 → 適 ・ 歛 → 観 (2) ・ 製 → 成 ・ 捉 → 促
- ・ 抛 → 処 ・ 徴 → 徴 ・ 挨拶 → 挨拶 ・ 信頼 → 信来 ・ 真剣 → 真険 ・ 不祥事 → 不詳事
- ・ 追究 → 追求 ・ 反映 → 繁栄 ・ 精一杯 → 情一杯 ・ 逸早く → 一早く

② かなの誤用

- ・ を → の ・ を → に ・ 気づく → 気づく ・ 想像し → 想像させ ・ スキル → スキリ

③ かなの不足

- ・ 会長として → 会長して ・ 伸ばせる → 伸せる ・ できずに → できず ・ 私には → 私は
- ・ 逃げず → 逃ず (2) ・ ことに → こと

- ④ 余分なかながある
 - ・行いました → 行ないました
- ⑤ かな表記すべきものを漢字表記している
 - ・こと → 事 (52) ・ため → 為 (5) ・いちばん → 一番 ・なっていく → 行って行く
 - ・わたり → 亙り ・さまざま → 様々
- ⑥ 話し言葉の使用
 - ・「なので」の使用 (6)
- ⑦ 方言の使用
 - ・はじ → はじっこ
- ⑧ 「い」抜き言葉の使用
 - ・なれていれば → なれてれば
- ⑨ 二つ目の「たり」がない (3)
- ⑩ 改行すべきところを改行していない (7)
- ⑪ 段落の最初を1マス空けていない (6)
- ⑫ 必要なところに読点がない (52)
- ⑬ 常体と敬体とが混用されている

(2) 調査結果から

漢字の誤用は、確実に覚えていないために点画の過不足や似たような形で書いたものが多い。また、発音が同じ漢字や熟語を書き間違っている。

かなについては、誤用は文脈を確認しない不注意が主な理由であろうが、「づ」「ず」の使い分けの間違があった。また、送りがなをどこから送るかの認識不足もある。

用語としては、話し言葉、方言、い抜き言葉の使用が見られた。

表記法では、改行がされずに或いは読点が必要なところに打たれずに、長い文章や長い文になってしまっている。

また、一文章内で、常体と敬体との混用が見られた。

3 入学後の学習

入学後は「国語」「文章表現法」で文字や語彙、表記等についての知識を学び、文章を書く上での留意事項を学んでいる。それぞれ15回の学習を設定しているが、そのうち今回の調査内容に関わる学習は、次のようなものである。

(1) 「国語」での学習

第1回…伝達手段としての言葉の利点、手段としての使用法、使用者としての心得

第2回…言葉を使ってもうまく伝わらない原因・理由

A 伝える側の問題 B 伝えられる側の問題 C 言葉そのものの問題

第3回…日本語の音（音節） 音節の定義、数、構造

日本語のアクセント 特徴、種類、分布

イントネーション、プロミネンス

第4回…日本語の文字

種類、漢字の成り立ち、漢字の読み、熟語の読み

ひらがな、カタカナ、ローマ字

第5回…日本語の語彙

定義、数、数が多い理由、種類、意味
類義語と対義語

第9回…文字を書く 読みやすい字の書き方

第12回…敬語 敬語の定義、しくみ、種類、使い方

(2) 「文章表現法」での学習

第1回…文章を書く目的が果たせない理由

知らない文字・言葉、難読文字、区切れ、難しい用語
文章の書き方を知る

文字、用語、記号の使い方、原稿用紙の使い方

第2回…悪文から学ぶ (その1)

文の長さ、用語、主語と述語の照応

第3回…悪文から学ぶ (その2)

主語と述語の位置、複数の修飾語の位置

悪文から学ぶ (その3)

読点の役割と使い方

第4回…文章表現のための原則

漢字の使用、漢字と仮名の使い分け

ら抜き言葉・い抜き言葉、話し言葉、文体

なお、第5回以降は、各回ごとにさまざまな種類の文章を実際にも書き、複数の級友と交換して読み合い、コメントを付け合う学習に取り組んでいる。

4 学習終了段階での調査

(1) 確認テスト

1年生の終了段階で、誤用や不適切な使用を正せるかの確認テストをした。事例は、学生の生活や文章に見られるもの、メディアで流されたものから採った。また、類義語の使い分けができるかどうかについても、併せて確認した。

実施したテスト内容は、以下の通りである。ただし、実際は縦書きである。

1 次の例で誤りや不適切な表現に傍線を引き、右側に直した表現を書き入れなさい。

① 【面接で】

〔面接官〕お母さんも教育関係のお仕事をなさっているのですか？

〔受験生〕はい。お母さんは幼稚園に勤務しています。

② 【感想文】

「今年の誕生日には自転車を買ってもらいました。めっちゃうれしかったです。
なので、親友のアちゃんにすぐメールしました。」

③ 【夏の朝のお天気キャスター】

「…水分補給をこまめにとってください。」

④ 【プロ野球のある投手のインタビュー】

「試合で投げれて良かったです。」

⑤ 【うなぎの蒲焼きの通販のCM】

「…メーカーさんと、けんけんがくがく…」

⑥ 【化粧品のCM】

「きめ細やかな肌をつくれます。」

⑦ 【ドラマ「水戸黄門」での黄門様のセリフ】

〔町人〕「ご隠居様は、いったいどのようなお方なので…」

〔黄門〕「越後のちりめん問屋の隠居です。ただ、少々おせっかいなのが玉にきずでしてな。」

⑧ 【友人同士の会話】

「情けは人のためならずって言うじゃないか。ここは心を鬼にして、何の手出しもしないことだな。」

「うん。そうするよ。」

2 次の（ ）の中に、「づらい」か「にくい」を入れなさい。

- ① 逆光で信号が見え（ ）
 - ② 視力が落ちてきたので新聞の文字が読み（ ）
 - ③ 道が狭くなっていて歩き（ ）
 - ④ 右手の人差し指をケガしたのでお箸が持ち（ ）
 - ⑤ 傾斜がないので雨水が側溝に流れ（ ）
- そのように答えたのはどうしてか。理由を簡潔に書きなさい。

(2) テスト結果

この質問を、間違いや不適切なものを知らせて指摘させ修正させるグループ (Aグループ) と、必ずあるとは限らないと説明して取り組ませるグループ (Bグループ) とに分けて実施した。結果は以下の通りである。

なお、整理に当たっては、次のようにした。

○…正しく指摘してあり、修正も正しい

△…指摘は正しくできているが、修正できていないか、間違っている

×…指摘も修正もできていない

質問項目 誤用・不適切 → 修正	Aグループ(59人)			Bグループ(51人)	
	答え	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
① 「お母さん」 → 「母」	○	52	88.1	36	70.6
	△	1	1.7	0	0
	×	6	10.2	15	29.4
②-1 「めっちゃ」 → 「とても」	○	59	100	49	96.1
	△	0	0	0	0
	×	0	0	2	3.9
②-2 「なので」 → 「だから」	○	21	35.6	17	33.3
	△	1	1.7	1	2.0
	×	37	62.7	33	64.7
③ 「とって」 → 「行って」	○	31	52.5	27	52.9
	△	18	30.5	5	9.8
	×	10	16.9	19	37.3
④ 「投げれて」 → 「投げられて」	○	56	94.9	45	88.2
	△	2	3.4	2	3.9
	×	1	1.7	4	7.8

⑤	○	0	0	1	2.0
	△	29	49.2	15	29.4
	×	30	50.8	35	68.6
⑥	○	8	13.6	2	3.9
	△	3	5.1	2	3.9
	×	48	81.4	47	92.2
⑦	○	0	0	0	0
	△	19	32.2	2	3.9
	×	40	67.8	49	96.1
⑧	○	3	5.1	1	2.0
	△	15	25.4	3	5.9
	×	41	69.5	47	92.2
2	○	8	13.6	3	5.9
	×	51	86.4	48	94.1

(3) テスト結果から

A、Bグループを比べてみて、○のついた割合は、どの質問についても大きな差はなかった。△は指摘はできている答えだが、Aグループの方が数が多い(③、⑤、⑦、⑧)。「誤りや不適切な表現があるので探さない」という指示のもとに取り組んだので、正答は分からなくても、誤り等を探すだけでもしようという意識が働いたためと思われる。

質問項目ごとに見ていくと、

①の敬語、④の「ら抜き言葉」の修正はよくできている。意識が十分にできていると考えてよい。

②の話し言葉のうち「めっちゃ」を直すのはほとんどの学生ができている。ただし「なので」の修正は3割ほどに留まった。「なので」は話し言葉であり文章では使えないことを何度か話してきたため高い正答率を期待したが、そうはならなかった。1問に2カ所の修正箇所があるとは考えず、「めっちゃ」が見つかったので他にはないと判断して見落とししたと思われる。

③は意味の重なりに気づく質問であったが、5割強の正答率であった。この場合「補給」という言葉が水分を摂る意味を既に示していることに気づかず、「水分 → とる」という考えが働いてしまったものと思われる。

⑤は正答数が1であった。「かんかんがくがく」と「けんけんごうごう」の一部が結びついて「けんけんがくがく」と誤用されていることを知らない。また、これらの言葉が日常的に使われるものではないので、CMで放送されても気づかないのであろう。

⑥も正答率が低い。「細やか」という言葉は知っているのに、肌の表現に合うと考えている。「きめ」は「細かい」「粗い」と表現するものであり、「細やか」とは言わないということを知らないためと思われる。

⑦の「玉にきず」は正しい修正がなかった。言葉としては正しいので、修正しなかった学生が多い。この例文の場合、「私はほんのちょっとの欠点はあるが、素晴らしい立派な人物である」ということになる。自分で自分を褒めていることになり、使い方として不自然であるが、そこまで考えられていない。

⑧のことわざ「情けは人のためならず」も正答率が低かった。「人のため」が「その人のため」ととらえられてきているという指摘があるが、その通りであった。

2の「づらい」と「にくい」の使い分けは、ほとんどの学生ができていない。全問を正確に答え、その理由もきちんと説明できていたのは、合わせて6名であった。明確に使い分けていなくても意味が伝わるためであろう。

(4) 意識調査

「文章表現法」の学習の終了段階で、意識調査を行った。用字・用語、主語・述語・修飾語の関係、文の長さ、書字法、読点、準備、心構えなどを広く質問した。また、授業を受けた後の取り組む姿勢ややり方への変化の有無についても調べた。質問内容は以下の通りである。

I 文章を書くとき、あなたは次のことがらについて心がけていますか。A B C D のいずれかの記号を〔 〕の中に書き入れて教えてください。

A : いつも心がけている B : 心がけることもある
C : あまり心がけていない D : 心がけることはない

- ① 意味が誤解されないように、できるだけ漢字を使う []
- ② 「ら抜き言葉」は使わない []
- ③ 話し言葉を使わない []
- ④ 適切な敬語を使う []
- ⑤ 分かりやすい単語を使う []
- ⑥ 主語と述語をはっきりさせて書く []
- ⑦ 修飾語と被修飾語を近づける []
- ⑧ 一文を長くしない []
- ⑨ 丁寧に(=ゆっくり、点画をはっきり)書く []
- ⑩ 濃く書く []
- ⑪ 適切な大きさで書く []
- ⑫ 漢字は仮名よりやや大きく書く []
- ⑬ やや右上がりに書く []
- ⑭ 意味の切れ目に点を打つ []
- ⑮ メモを作ったり下書きをしたりしてから書く []
- ⑯ 文章の種類によって目的が違うことを意識して書く []

*これらの他に、心がけていることがあれば、書いてください。

II この「文章表現法」の授業を受けて、あなた自身の取り組む姿勢ややり方に変化がありましたか。次のアまたはイに○を付けてください。

ア あった イ ない

アを選択した方、それはIのどのことがらですか。特に変化が大きかったものから順番に、三つ目まで番号で教えてください。

[/ /]

イを選択した方、それはどうしてでしょう。理由を書いてください。

(5) 調査結果

回答者は92人で、結果は以下の通りである。

I 文章を書くとき

	質 問 内 容	A 人数 (割合)	B 人数 (割合)	C 人数 (割合)	D 人数 (割合)
①	意味が誤解されないように、できるだけ漢字を使う	58(63.0)	32(34.8)	2(2.2)	0(0.0)
②	「ら抜き言葉」は使わない	50(54.3)	35(38.0)	7(7.6)	0(0.0)
③	話し言葉を使わない	54(58.7)	33(35.9)	5(5.4)	0(0.0)
④	適切な敬語を使う	60(65.2)	30(32.6)	2(2.2)	0(0.0)
⑤	分かりやすい単語を使う	53(57.6)	38(41.3)	1(1.1)	0(0.0)
⑥	主語と述語をはっきりさせて書く	38(41.3)	45(48.9)	8(8.7)	1(1.1)
⑦	修飾語と被修飾語を近づける	9(9.8)	49(53.3)	28(30.4)	6(6.5)
⑧	一文を長くしない	30(32.6)	54(58.7)	8(8.7)	0(0.0)
⑨	丁寧に(=ゆっくり、点画をはっきり)書く	47(51.1)	39(42.4)	5(5.4)	1(1.1)
⑩	濃く書く	56(60.9)	25(27.2)	9(9.8)	2(2.2)
⑪	適切な大きさと書く	57(62.0)	30(32.6)	4(4.3)	1(1.1)
⑫	漢字は仮名よりやや大きく書く	37(40.2)	30(32.6)	22(23.9)	3(3.3)
⑬	やや右上がりに書く	23(25.0)	36(39.1)	27(29.3)	6(6.5)
⑭	意味の切れ目に点を打つ	55(59.8)	33(35.9)	3(3.3)	1(1.1)
⑮	メモを作ったり下書きをしたりしてから書く	32(34.8)	43(46.7)	14(15.2)	3(3.3)
⑯	文章の種類によって目的が違うことを意識して書く	24(26.1)	46(50.0)	18(19.6)	4(4.3)
これらの他に、心がけていることがあれば書いてください。()内の数字は人数					
<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちを落ち着かせてから書く ・時間に余裕をもって書く (2) ・読み手の姿を想像して書く (4) ・漢字の間違いには気をつけている ・漢字は少しでも不安に思ったら絶対に調べる ・擬音はカタカナを使う ・文字が見やすいように、少し間隔を空けて書いている ・正しい書き順で書く ・書き終えたら読み返し、誤字・脱字がないか、意味がしっかり読み手に伝わるか確認する (6) ・文末に同じ言葉が続かないように、バリエーションを増やす (3) ・文章の構成 ・段落の分け方に気をつけている ・結論を先に述べてから内容を書けるように意識することが増えた 					

II 「文章表現法」の授業を受けての変化

変化の有無	ア あった 89人(96.7%)				イ ない 3人(3.3%)	
変化したこと (回答数の多かったもの)	第一位	第二位	第三位	一から三位合計		
	② 17	⑧ 13	⑧、⑮ 15	②	34	
	④ 14	② 11		④	28	
	①、③ 13	⑮ 9	⑭ 8	⑧	27	
イ ない と答えた理由						
<ul style="list-style-type: none"> ・元々字は丁寧に書くよう心がけていたので、自身の取り組む姿勢は特に大きく変わっていない。だが、文章表現法でたくさん文章を書くことで文章を書く力がついた。 ・今まで自分がしてきたやり方とほぼ同じだったため、あまり変化はなかった。 						

(6) 調査結果から

Iの心がけていることでは、AとBの回答を合わせて9割以上になったものが多い(①、②、③、④、⑤、⑥、⑧、⑨、⑪、⑭)。ここまでの学習内容が反映された結果であると考えられる。

一方、まだまだ浸透不足と言えるものもある。⑦の修飾語と被修飾語を近づけるは、CとDの回答を合わせると、36.9%あった。

また、⑫漢字は仮名よりやや大きく書く⑬やや右上がりを書く⑯文章の種類によって目的が違うことを意識して書くの各項目も、心がけていない学生が相当数いる。修飾語や被修飾語がどの文節でどういう位置にあるかを考えながら表現することは少なく、両者が離れていても意味が通じるから良いと考えているためであろう。

漢字を仮名よりやや大きく書いたり、文字をやや右上がりを書いたりするのは、正しく的確に伝えるために書くときの主要なポイントではないため、関心が少し薄いのではないかと考えられる。

質問項目以外で心がけていることとして、気持ちや取り組む態度が挙げられ、カタカナの適切な使用、読み直して確認すること、文末表現の多様化、構成の工夫などが出されている。

IIの「文章表現法」の授業を受けての変化については、ほとんどの学生が「変化があった」と答えている。変化の大きかった順に三つ項目を挙げさせたが、回答が多かったものは、②「ら抜き言葉」は使わない④適切な敬語を使う⑧一文を長くしないであった。これらについては従前はそれほど意識せずに書いていたということになる。

また、変化はないと答えた学生もいるが、既に心がけている、身につけているということであった。

5 結果を受けて ～成果と課題～

学生は1年間の学習をもとに、言葉に関する知識を広げ、文章を書く目的や方法を知った。読む相手のことを考えた読みやすく分かりやすい言語表現をしようという意識も高まっている。

このことは、例えば「文章表現法」の学生による授業評価において、次のような記述が見受けられたことから窺える。

- ・この授業を通して、文章を多く書くことが多かったので、課題に対して文章を上手く構成する力がつきました。また、感想を友達から貰うことによって周りの評価を貰えるため、具体的にどこが良かったかを知れて自己肯定感が上がりました。
- ・文章表現は生きていく上でも大切だし、保育者はたくさんの人と関わる場面も多いと思います。その

時に活用できるのではないかと思います。また、いろいろな場面を想定して、どうしたらよいか考えられる力もついたなと思います。

- ・保育者に必要な文章力やお礼状の書き方など、わかりやすく教えてくださいました。この授業で作文などの文章を書く力が前よりも身についたと思います。これを活かして日案などの文章を考える時に役立てたいです。
- ・今までは長々と文章を書いていましたが、授業で学んでからは分かりやすく書くことを心がけるようになりました。
- ・いろいろな文章を書くにあたり、注意することなど学ぶことができた。友人の文章を読み勉強になった部分も多くあった。

前掲の(5)の調査結果で、多くの項目について9割以上の学生が心がけていることが分かった。にもかかわらず、(2)のテスト結果で示されたように、正答率が低いものがあるということも明らかになった。

意識はあっても、表現の誤りや不適切さを指摘し修正するという具体的な結果に結びついていない、という課題を抱えている。一般論としての注意事項は理解していても、自己の表現に必ずしも実現していない。例えば、「話し言葉は文章を書く場合には使わない」ということは理解したとして、果たしてどんな言葉が話し言葉なのかが分かっていないと、読んでも見逃してしまい、自らも文章中に使ってしまうということが起こりかねないのである。

この課題を改善するためには、究極的には逐語指導が必要ということになってくるが、それは難しい。正しく適切で分かりやすい表現を意識づけ、その実現に近づけるために、次のようなことが重要だと考えられる。

① 適切な言語環境を提供する

分かりやすい表現、優れた表現に出会わせるための支援をする。ソフト面の充実や案内・紹介活動を積極的に行う。

② 読む相手がいるということを常に意識させて表現させる

相互に学び合える場を設定し機能させる。そうすることで、他者の経験や優れた表現を参考にさせることができる。

③ メディア等からの発信を保護者や周囲の大人がチェックする

「カラスなぜ鳴くの、カラスの勝手でしょう」が正しい歌詞だと思ったり、「渡る世間は鬼ばかり」が正しい言葉だと思い込む子どもたちが増えてしまった、という苦い経験を私たちは持っている。流されることなく、きちんとした形に修正していかなければならない。

令和3年度運営委員（アイウエオ順）

久保木 健夫	清水 一巳
黒田 順子	鈴木 健一
齋藤 めぐみ	三浦 謙一
佐久間 敦子	村瀬 瑠美

『千葉敬愛短期大学総合子ども学研究所 年報』

発行——2022（令和4）年3月31日

編集者——千葉敬愛短期大学総合子ども学研究所 運営委員会

発行者——千葉敬愛短期大学総合子ども学研究所

所長 鈴木 健一

〒285-8567 千葉県佐倉市山王1丁目9番地

TEL. 043-486-7111（代表） FAX. 043-486-2200

印刷所——大日本法令印刷株式会社

千葉敬愛短期大学